

## 基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部設置									
フリガナ設置者	ガッコーホジシケンケンカクケン 学校法人 金蘭会学園									
フリガナ大学の名称	センリケンダクガク 千里金蘭大学 (Senrikinran University)									
大学本部の位置	大阪府吹田市藤白台5丁目25番1号									
大学の目的	建学の精神に則り、豊かな教養と深い専門知識を有し、高い志のもと、社会に貢献し信頼される人材を養成する。本学の教育目的を実現するため、自ら考え自ら学ぶ姿勢を身につけることで、他者への共感・他者との協調・他者への奉仕を実践し、接続可能な社会の構築に貢献できる、すなわち自らを育て自立することのできる女性の育成を目標とする。									
新設学部等の目的	教育学部では、「教育学分野の学問体系の理解の基に、教育の本質と社会的な意義や役割の理解とともに、教育に関する知識と技能を教育実践の場面に適用することができる応用能力をもって、教育の諸活動を主体的に行い、学校教育や地域教育の推進に寄与する能力と態度を育てる」ことを教育研究上の目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	教育学部 [Faculty of Education] 教育学科 [Department of Education]  計	年  4	人  70  70	年次人 -	人 280 280	学士 (教育学) 【Bachelor of Education】	年月 第 年次 令和5年4月 第1年次	大阪府吹田市藤白台5丁目25番1号		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	栄養学部 栄養学科 (80) (令和4年4月届出) 生活科学部 (廃止) 食物栄養学科 (廃止) (△80) 児童教育学科 (廃止) (△70) ※令和5年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	教育学部 教育学科	講義	演習	実験・実習	計	124				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
		教育学部 教育学科	6 (6)	7 (7)	1 (1)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	32 (32)	
		栄養学部 栄養学科	7 (7)	4 (4)	4 (4)	2 (2)	17 (17)	3 (3)	26 (26)	
		計	13 (13)	11 (11)	5 (5)	5 (5)	34 (34)	3 (3)	58 (58)	
	既設分	看護学部 看護学科	13 (13)	7 (7)	4 (4)	10 (10)	34 (34)	1 (1)	25 (25)	
計		13 (13)	7 (7)	4 (4)	10 (10)	34 (34)	1 (1)	25 (25)		
合計		26 (26)	18 (18)	9 (9)	15 (15)	68 (68)	4 (4)	83 (83)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		29 (29)		19 (19)		48 (48)			
	技術職員		— (—)		— (—)		— (—)			
	図書館専門職員		1 (1)		2 (2)		3 (3)			
	その他の職員		— (—)		— (—)		— (—)			
計		30 (30)		21 (21)		51 (51)				

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地		11,816 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	11,816 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地		38,667 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	38,667 m <sup>2</sup>				
	小 計		50,483 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	50,483 m <sup>2</sup>				
	そ の 他		0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>				
	合 計		50,483 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	50,483 m <sup>2</sup>				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
			38,801.74 m <sup>2</sup> (38,801.74 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	38,801.74 m <sup>2</sup> (38,801.74 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	28室	27室	24室	6室 (補助職員 一人)	1室 (補助職員 一人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称		室 数					
			教育学部教育学科		18 室					
図書・ 設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数		
	栄養学部栄養学科	207,998 [33,814] (206,798 [33,774])	(128 [38]) (128 [36])	(3,890 [2,433]) (3,890 [2,433])	844 (804)	3,268 (3,268)	— (—)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		2,462m <sup>2</sup>		381	210,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		1,181.30m <sup>2</sup>		テニスコート5面 ゴルフ練習場						
経 費 積 及 び 方 法 の 概 要	経費の 見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	学部単位での算出不 能なため、大学全体 の数
		教員1人当り研究費等	150千円	150千円	150千円	150千円	150千円	—	—	
		共 同 研 究 費 等	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	—	—	
		図 書 購 入 費	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	
	設 備 購 入 費	14,500千円	14,500千円	14,500千円	14,500千円	14,500千円	—	—	図書費には電子 ジャーナル・デー ターベースの整備 費、その他の経費 (運用コスト含む) を含む	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,380千円	1,130千円	1,130千円	1,130千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、資産運用収益等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	千里金蘭大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	看護学部 看護学科	4	90	—	360	学士 (看護学)	1.10 1.10	平成20年 度	大阪府吹田市藤白台 5丁目25番1号	
	生活科学部 食物栄養学科	4	80	—	320	学士 (栄養学)	0.76 0.76	平成15年 度		
児童教育学科	4	70	—	280	学士 (児童学)	0.77	平成19年 度			
附属施設の概要		特になし								

## 学校法人金蘭会学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
千里金蘭大学				千里金蘭大学				
看護学部				看護学部				
看護学科				90	—		360	
生活科学部				<u>栄養学部</u>				学部の設置（届出）
食物栄養学科				80	—		320	
児童教育学科				70	—		280	学部の設置（届出）
計				240	—		960	
千里金蘭大学大学院				千里金蘭大学大学院				
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻（M）				6	—		12	
計				6	—		12	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行 新終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
生活科学部 児童教育学科 (廃止)	学士 (児童学)	児童学関係	教育学部教育学科	17	6	教育学部 教育学科	学士 (教育学)	教育学関係	生活科学部児童教育学科	17	6
			計	17	6				計	17	6

## 基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続の区分
平成19年4月	千里金蘭大学生生活科学部児童学科 設置	家政学 教育学・保育学 社会学・社会福祉学	設置届出（学科）
平成21年4月	千里金蘭大学生生活科学部児童学科入学定員変更（100名→80名）	家政学 教育学・保育学 社会学・社会福祉学	入学定員変更（学科）
平成27年4月	千里金蘭大学生生活科学部児童学科入学定員変更（80名→70名）	家政学 教育学・保育学 社会学・社会福祉学	入学定員変更（学科）
平成28年4月	千里金蘭大学生生活科学部児童学科を児童教育学科に名称変更	家政学 教育学・保育学 社会学・社会福祉学	名称変更（学科）

## 教育課程等の概要

（教育学部 教育学科）

区分	科目名	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次教育	持続可能社会論	1	2			○									兼3
	スタディスキルズ	1	2			○									兼2
	情報機器の操作Ⅰ	1	1				○								兼2
	情報機器の操作Ⅱ	1	1				○								兼2
	基礎数学	1		2		○									兼1
	基礎化学	1		2		○									兼1
	基礎生物	1		2		○									兼1
	小計（7科目）	—	6	6	0	—			0	0	0	0	0		兼7
就業力育成	日本語読解・表現	1・2・3・4		2		○									兼2
	法律と経済	1・2・3・4		2		○									兼1
	ソーシャルマナー	1・2・3・4		2		○									兼1
	キャリアデザイン	2・3・4		2		○									兼1
	インターンシップ	2・3・4		2				○							兼1
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0		兼6
教養教育科目	茶道	1・2・3・4		2			○								兼5 共同
	書道	1・2・3・4		2			○								兼1
	音楽	1・2・3・4		2			○								兼1
	美術	1・2・3・4		2		○			1						
	リベラルアーツ演習	1・2・3・4		2			○								兼1
	文学	1・2・3・4		2		○									兼2
	哲学	1・2・3・4		2		○									兼1
	ジェンダー・ダイバーシティ論	1・2・3・4		2		○									兼1
	共生社会と人権	1・2・3・4		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4		2		○									兼1
	小計（10科目）	—	0	20	0	—			1	0	0	0	0		兼13
健康科学	健康総論	1・2・3・4		2		○						1			
	健康スポーツ	1		2				○				1			
	こころと健康	1・2・3・4		2		○			1						
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	1	0	1	0		
外国語	総合英語A	1・2・3・4		1			○								兼1
	総合英語B	1・2・3・4		1			○								兼1
	英語コミュニケーションA	1・2・3・4		1			○								兼2
	英語コミュニケーションB	1・2・3・4		1			○								兼2
	英語コミュニケーションC	2・3・4		1			○								兼1
	英語コミュニケーションD	2・3・4		1			○								兼1
	英語コミュニケーションE	1・2・3・4		1			○								兼1
	ハングルⅠ	1・2・3・4		1			○								兼1
	ハングルⅡ	1・2・3・4		1			○								兼1
	中国語Ⅰ	1・2・3・4		1			○								兼1
	中国語Ⅱ	1・2・3・4		1			○								兼1
小計（11科目）	—	0	11	0	—			0	0	0	0	0		兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	・実習 ・実験	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	教育原理	1	2			○			1						
	教師論	2	2			○			1						
	発達心理学	1	2			○				1					
	特別支援教育	2	2			○				1					
	教育の方法と技術	2	2			○			1			1			共同
	保育内容（総論）	1		2		○				1					
	音楽表現Ⅰ	1		1			○					1			
	音楽表現Ⅱ	1		1			○				1				
	造形表現Ⅰ	1		1			○		1						
	造形表現Ⅱ	1		1			○		1						
	器楽演習Ⅰ	1	1				○					1			兼3 共同
	器楽演習Ⅱ	1		1			○					1			兼3 共同
	子ども家庭福祉	1	2			○				1					
	保育原理Ⅰ	1	2			○			1						
	子どもの保健	1		2		○									兼1
小計（15科目）	—	15	9	0	—	—	—	4	4	1	2	0	兼4		
専門科目	教育心理学	1		2		○				1					
	教育課程論	2		2		○						1			
	教育制度論	3		2		○				1					
	教育相談	2		2		○				1					
	生徒指導・進路指導	3		2		○									兼1
	道徳教育指導論	2		2		○			1						
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3		2		○				1					
	児童算数	2		2		○				1					
	児童国語	1		2		○									兼1
	児童生活	2		2		○				1					
	児童社会	2		2		○			1						
	児童理科	1		2		○									兼1
	児童家庭	2		2		○									兼1
	子ども音楽	2		2		○					1	1			
	子ども造形	2		2		○			1						
	子どもスポーツ	2		2		○				1					
	子ども英語	2		2		○			1						
	国語科教育法	2		2		○									兼1
	社会科教育法	2		2		○			1						
	算数科教育法	2		2		○									兼1
	理科教育法	2		2		○									兼1
	生活科教育法	3		2		○									兼1
	音楽科教育法	3		2		○						1			
	図画工作科教育法	3		2		○			1						
	家庭科教育法	3		2		○									兼1
	体育科教育法	3		2		○						1			
	英語科教育法	3		2			○								兼1
	子ども理解と教育相談	2		2		○				1					
	幼児と健康	1		1		○				1					
	幼児と人間関係	2		1		○				1					
	幼児と環境	2		1		○				1					
	幼児と言葉	2		1		○									兼1
	幼児と表現	2		1		○			1		1				共同
保育内容（健康）	2		2		○				1						
保育内容（言葉）	2		2		○									兼1	
保育内容（人間関係）	2		2		○				1						
保育内容（環境）	3		2		○				1						
保育内容（表現）	3		2		○					1					
社会福祉論	2		2		○									兼1	
社会的養護Ⅰ	2		2		○				1						
子どもの理解と援助	2		1		○				1						
保育の計画と評価	2		2		○			1							
乳児保育Ⅰ	2		2		○									兼1	
乳児保育Ⅱ	2		2		○									兼1	
障がい児保育	2		2		○									兼1	
子ども家庭支援論	3		2		○				1						
子ども家庭支援の心理学	3		2		○				1						
子どもの食と栄養	3		2		○									兼1	
子どもの健康と安全	3		1		○									兼1	
社会的養護Ⅱ	3		1			○								兼1	
子育て支援	3		1			○			1						
保育者論	4		2		○									兼1	
小計（52科目）	—	0	95	0	—	—	—	4	7	1	3	0	兼17		

区分	科目名	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	・実験 ・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	保幼関連科目	生活健康論	3	2		○									兼1	
		食育指導論	3	2		○									兼1	
		食育実践論	3	2		○									兼1	
		国際子ども支援学	3	2		○									兼1	
		子どもとメディア	3	2		○				1						
		子ども臨床心理学	3	2		○				1						
		小児看護学概論	3	2		○									兼1	
		子ども音楽実践演習	3	1			○						1			
		保育原理Ⅱ	4	2		○				1						
	総合表現	2	2			○						1				
	展開科目	実習・実践演習科目	子ども地域活動Ⅰ	1	1				○		1		2		兼1	
			子ども地域活動Ⅱ	1	1				○		1		2		兼1	
			子どもインターンシップ	2	1					○	1	2	1		共同	
			子ども地域ボランティア	1	1					○	1	1			共同	
			海外インターンシップ	2	2					○	1	1	1			
			介護等体験実習	2	1					○	1					
			保育実習ⅠA(保育所)	3	2					○		1				
			保育実習ⅠB(施設)	3	2					○		1				
			保育実習指導ⅠA(保育所)	3	1		○				1	2				
			保育実習指導ⅠB(施設)	3	1		○					1				
			保育実習Ⅱ	3	2					○		1				
			保育実習指導Ⅱ	3	1		○				1	2				
			保育実習Ⅲ	4	2					○		1				
			保育実習指導Ⅲ	4	1		○					1				
			教育実習A(1単位は講義を含む)	4	5			※		○		1	1			
			教育実習B(1単位は講義を含む)	3	5			※		○	1					
			保育・教職実践演習(幼稚園)	4	2			○				1	1			共同
			教職実践演習(幼・小)	4	2				○			1	1			共同
			小計(28科目)	—	2	50	0			—	5	7	1	3	0	兼4
総合演習科目	基礎ゼミⅠ	1	1				○			3	1			兼1 共同		
	基礎ゼミⅡ	1	1				○			3	1			兼1 共同		
	応用ゼミⅠ	2	1				○		1	2		2				
	応用ゼミⅡ	2	1				○		1	2		2				
	発展ゼミⅠ	3	1				○		3	3	1	1		共同		
	発展ゼミⅡ	3	1				○		3	3		1		共同		
	卒業研究	4	4				○		3	6		2				
	小計(7科目)	—	10	0	0			—	4	6	1	3	0	兼1		
関連科目	キャリア演習A	2	1				○		2							
	キャリア演習B	2	1				○		2			1				
	キャリア演習C	3	1				○		2	2						
	キャリア演習D	3	1				○		3	1	1					
	キャリア演習E	4	1				○		3	1	1					
	小計(5科目)	—	0	5	0			—	3	2	1	1	0			
合計(143科目)		—	33	212	0			—	6	7	1	3	0	兼42		
学位又は称号		学士(教育学)			学位又は学科の分野					教育学・保育学関係						
卒業要件及び履修方法										授業期間等						
1. 教養教育科目及び専門科目より、合計124単位以上を修得しなければならない。 2. 教養教育科目については、24単位以上修得しなければならない。 上記の24単位には、「初年次教育」の科目区分より必修6単位を含む8単位以上、「就業力育成」「リベラルアーツ」「健康科学」「外国語」の科目区分より、それぞれ2単位以上を含め、尚且つ「日本国憲法」「健康スポーツ」「英語コミュニケーションA」「英語コミュニケーションB」の科目を含めて修得しなければならない。 また、他学部開講科目及び大学コンソーシアム大阪単位互換科目を4単位まで含めることができる。 3. 専門科目については、92単位以上修得しなければならない。 上記の92単位には、「基礎科目」15単位以上、「基幹科目」48単位以上、「展開科目」8単位以上、「総合演習科目」10単位を含めなければならない。										1学年の学期区分	2学期					
										1学期の授業期間	15週					
										1時限の授業時間	90分					



教育課程等の概要

(生活科学部 児童教育学科)

区分	科目名	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次教育	持続可能社会論	1	2			○									兼3
	スタディスキルズ	1	2			○									兼2
	情報機器の操作Ⅰ	1	1				○								兼2
	情報機器の操作Ⅱ	1	1				○								兼2
	基礎数学	1		2		○									兼1
	基礎化学	1		2		○									兼1
	基礎生物	1		2		○									兼1
小計（7科目）	—	6	6	0	—			0	0	0	0	0		兼7	
就業力育成	日本語読解・表現	1・2・3・4		2		○									兼2
	法律と経済	1・2・3・4		2		○									兼1
	ソーシャルマナー	1・2・3・4		2		○									兼1
	キャリアデザイン	2・3・4		2		○									兼1
	インターンシップ	2・3・4		2				○							兼1
小計（5科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0		兼6	
リベラルアーツ	茶道	1・2・3・4		2			○								兼5 共同
	書道	1・2・3・4		2			○								兼1
	音楽	1・2・3・4		2			○								兼1
	美術	1・2・3・4		2		○			1						
	リベラルアーツ演習	1・2・3・4		2			○								兼1
	文学	1・2・3・4		2		○									兼2
	哲学	1・2・3・4		2		○									兼1
	ジェンダー・ダイバーシティ論	1・2・3・4		2		○									兼1
	共生社会と人権	1・2・3・4		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4		2		○									兼1
小計（10科目）	—	0	20	0	—			1	0	0	0	0		兼13	
健康科学	健康総論	1・2・3・4		2		○						1			
	健康スポーツ	1		2				○				1			
	こころと健康	1・2・3・4		2		○				1					
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	1	0	1	0		
外国語	総合英語A	1・2・3・4		1			○								兼1
	総合英語B	1・2・3・4		1			○								兼1
	英語コミュニケーションA	1・2・3・4		1			○								兼2
	英語コミュニケーションB	1・2・3・4		1			○								兼2
	英語コミュニケーションC	2・3・4		1			○								兼1
	英語コミュニケーションD	2・3・4		1			○								兼1
	英語コミュニケーションE	1・2・3・4		1			○								兼1
	ハングルⅠ	1・2・3・4		1			○								兼1
	ハングルⅡ	1・2・3・4		1			○								兼1
	中国語Ⅰ	1・2・3・4		1			○								兼1
	中国語Ⅱ	1・2・3・4		1			○								兼1
小計（11科目）	—	0	11	0	—			0	0	0	0	0		兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	・実験 ・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	音楽表現Ⅰ	1		1			○					1		
	音楽表現Ⅱ	1		1			○				1			
	造形表現Ⅰ	1		1			○		1					
	造形表現Ⅱ	1		1			○		1					
	器楽演習Ⅰ	1	1				○					1		兼3 共同
	器楽演習Ⅱ	1		1			○					1		兼3 共同
	子ども家庭福祉	1	2			○				1				
	保育原理Ⅰ	1	2			○			1					
	子どもの保健	1	2			○								兼1
	保育内容（総論）	1		2		○				1				
	教育原理	1	2			○			1					
	発達心理学	1	2			○				1				
小計（12科目）	—	11	7	0	—			2	3	1	1	0	兼4	
専門科目	教育心理学	1		2		○				1				
	子どもの理解と援助	2		1		○				1				
	教育相談	2		2		○				1				
	子ども理解と教育相談	2		2		○				1				
	子どもの健康と安全	3		1		○								兼1
	子どもの食と栄養	3		2		○								兼1
	子ども英語	2		2		○			1					
	子ども音楽	2		2		○					1	1		
	子ども造形	2		2		○			1					
	子どもスポーツ	2		2		○				1				
	子ども音楽実践演習	3		1			○					1		
	社会福祉論	2		2		○								兼1
	社会的養護Ⅰ	2		2		○				1				
	子ども家庭支援論	3		2		○				1				
	保育の計画と評価	2		2		○			1					
	保育内容（健康）	2		2		○				1				
	保育内容（言葉）	2		2		○								兼1
	保育内容（人間関係）	2		2		○				1				
	保育内容（環境）	3		2		○				1				
	保育内容（表現）	3		2		○					1			
	保育者論	4		2		○								兼1
	乳児保育Ⅰ	2		2		○								兼1
	乳児保育Ⅱ	2		2		○								兼1
	障がい児保育	2		2		○								兼1
	教師論	2		2		○			1					
	教育課程論	2		2		○						1		
	教育制度論	3		2		○				1				
	教育の方法と技術	2		2		○			1			1		共同
	生徒指導・進路指導	3		2		○								兼1
	特別支援教育	2		2		○				1				
	道徳教育指導論	2		2		○			1					
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3		2		○				1				
	児童算数	2		2		○				1				
	児童国語	1		2		○								兼1
	児童生活	2		2		○				1				
	児童社会	2		2		○			1					
	児童理科	1		2		○								兼1
	児童家庭	2		2		○								兼1
小計（38科目）	—	0	73	0	—			5	7	1	2	0	兼14	

区分	科目名	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	・実験 ・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
展開科目	子ども臨床心理学	3		2		○				1						
	小児看護学概論	3		2		○									兼1	
	生活健康論	3		2		○									兼1	
	食育指導論	3		2		○									兼1	
	食育実践論	3		2		○									兼1	
	国際子ども支援学	3		2		○									兼1	
	子どもとメディア	3		2		○				1						
	子育て支援	3		1			○			1						
	社会的養護Ⅱ	3		1			○								兼1	
	子ども家庭支援の心理学	3		2		○				1						
	保育原理Ⅱ	4		2		○			1							
	保育・教職実践演習(幼稚園)	4		2		○				1	1					共同
	国語科教育法	2		2		○									兼1	
	社会科教育法	2		2		○			1							
	算数科教育法	2		2		○									兼1	
	理科教育法	2		2		○									兼1	
	生活科教育法	3		2		○									兼1	
	音楽科教育法	3		2		○						1				
	図画工作科教育法	3		2		○			1							
	家庭科教育法	3		2		○									兼1	
	体育科教育法	3		2		○						1				
	英語科教育法	3		2			○								兼1	
	総合表現	2		2			○					1				
	教職実践演習(幼・小)	4		2			○		1	1						共同
小計(24科目)	—	0	46	0	—			3	6	1	2	0		兼10		
専門科目	子ども地域活動Ⅰ	1	1					○		1	2			兼1		
	子ども地域活動Ⅱ	1	1					○		1	2			兼1		
	子どもインターンシップ	2		1				○	1	2	1				共同	
	子ども地域ボランティア	1		1				○	1	1					共同	
	海外インターンシップ	2		2				○	1	1	1					
	介護等体験実習	2		1				○	1							
	保育実習ⅠA(保育所)	3		2				○		1						
	保育実習ⅠB(施設)	3		2				○		1						
	保育実習指導ⅠA(保育所)	3		1		○			1	2						
	保育実習指導ⅠB(施設)	3		1		○			1							
	保育実習Ⅱ	3		2				○		1						
	保育実習指導Ⅱ	3		1		○			1	2						
	保育実習Ⅲ	4		2				○		1						
	保育実習指導Ⅲ	4		1		○			1							
	教育実習A(幼稚園・1単位は講義を含む)	4		5		※		○	1	1						
	教育実習B(小学校・1単位は講義を含む)	3		5		※		○	1							
小計(16科目)	—	2	27	0	—			5	7	1	3	0		兼1		
総合演習科目	基礎ゼミⅠ	1	1				○			3	1			兼1	共同	
	基礎ゼミⅡ	1	1				○			3	1			兼1	共同	
	応用ゼミⅠ	2	1				○		1	2		2				
	応用ゼミⅡ	2	1				○		1	2		2				
	発展ゼミⅠ	3	1				○		3	3		1			共同	
	発展ゼミⅡ	3	1				○		3	3		1			共同	
	卒業研究	4	4				○		3	6		2				
小計(7科目)	—	10	0	0	—			4	6	1	3	0		兼1		
関連科目	キャリア演習A	2		1			○		2							
	キャリア演習B	2		1			○		2			1				
	キャリア演習C	3		1			○		2	2						
	キャリア演習D	3		1			○		3	1	1					
	キャリア演習E	4		1			○		3	1	1					
	小計(5科目)	—	0	5	0	—			3	2	1	1	0			
合計(147科目)	—	29	211	0	—			6	7	1	3	0		兼42		
学位又は称号		学士(児童学)			学位又は学科の分野			家政学関係、教育学・保育学関係 社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
1. 教養教育科目及び専門科目より、合計124単位以上を修得しなければならない。 2. 教養教育科目については、24単位以上修得しなければならない。 上記の24単位には、「初年次教育」の科目区分より必修6単位を含む8単位以上、「就業力育成」「リベラルアーツ」「健康科学」「外国語教育」の科目区分より、それぞれ2単位以上を含めなければならない。 また、他学部開講科目及び大学コンソーシアム大阪単位互換科目を4単位まで含めることができる。 3. 専門科目については、92単位以上修得しなければならない。 上記の92単位には、「基礎科目」15単位以上、「基幹科目」30単位以上、「展開科目」10単位以上、「実習科目」2単位以上、「総合演習科目」10単位を含めなければならない。									1学年の学期区分		2学期					
									1学期の授業期間		15週					
									1時限の授業時間		90分					

## 授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	初年次教育 持続可能社会論	本学の建学の精神とSDGsの関わりについてフィールドワーク、バズ・セッション、プレゼンテーションを通じて理解する。具体的には3学部3学科(栄養学部栄養学科/教育学部教育学科/看護学部看護学科)から提示されたテーマについて個々にフィールドワークをしたのち、教室でのバズセッション(少人数の討論と成果発表)を行い、その結果をグループごとにプレゼンテーションする。なお、第1回、第2回、第15回の全体授業を除き、第3回～第14回は240名を80名ずつ学科混合の3クラスに分けて授業展開する。	
	スタディスキルズ	本学は「教養を身につけ、豊かな人間味を兼ね備えた女性を育成する」ことを建学の精神として掲げている。スタディスキルズは4年間の学びの基盤を形成するための授業であり、高校までの学習とは異なる積極的なStudy(=語源はラテン語で「熱意を持って追求する」が原義)の意識と技術を身につけることを目標とする。自己評価(セルフ・アセスメント)、相互評価(ピア・アセスメント)、教員評価を経て、大学における学びの深化を目指す。	
	情報機器の操作Ⅰ	コンピュータとインターネットの歴史と概念を概説した後、学内LANの使い方を説明する。さらにネット社会と著作権及びSNSの安全な利用についての理解を深める。また、WindowsのファイルやWeb操作を学ぶ。さらに大学の授業に必要なアプリケーションソフトの使い方を実習中心に修得する。PowerPointを使ってプレゼンテーションの基本的な手法を学ぶ。Wordを用いてレポートの形式等を学ぶ。Excelを用いてデータ入力や簡単な関数処理を学ぶ。	
	情報機器の操作Ⅱ	前期に引き続き、情報機器の操作の習熟をはかる。中心となるのは情報倫理を含むコンピュータやネットワークの概念の把握と各アプリケーションソフトの操作である。その際、学科の特色に対応した演習内容とする。PowerPointを使って専門教育の内容を発表する(個人発表)。Wordで学内レポート及び一般ビジネス文書の形式を学ぶ。Excelで数値データの解析(基礎・応用)および集計処理の方法を学ぶ。	
	基礎数学	日常の計算などの数的処理の基礎知識は、国家試験問題や就職試験におけるSPI(非言語)を解く際に必須である。また、各学科の専門科目を学ぶ上でも基礎的な数的処理スキルは重要である。この科目では、数的処理の基礎知識を再度確実なものにすることを目的とする。授業では例題を解きながら、内容の理解に努める。その際とくに、変化する量を式やグラフでどのように表すのかを学ぶ。さまざまな社会現象を記述する際に文字データだけでなく、図式化して視覚的に理解しやすいものとするのは極めて重要である。	
	基礎化学	無機化学と有機化学の基礎を学ぶ。無機化学においては元素の電子配置と周期表の関係を理解し、ひとつの元素の性質から類似の元素の性質を推測できるようになること、元素の化合物の構造や性質を周期表に照らし合わせて理解することをめざす。有機化学は生物、医薬品、食品などあらゆる物質に関連する。授業では有機化学の基礎概念を理解するとともに、専門教育に必要な有機化学の基礎を習得する。最終的な目標を、周期表の構成原理を理解するとともに、簡単な化合物の構造を説明できるようになることにおく。	
	基礎生物	私たち自身の身体のはたらきを理解するためにも、現代のバイオテクノロジーを理解するためにも、生物学の基本的な知識は必須である。この授業ではまず、生命の根本である細胞の構造やその誕生の概要について学び、次いで神経系のはたらきや酵素の役割といった実際に生物の身体を動かすメカニズムについても学ぶ。そして、そうした身体のはたらきを進化の観点から理解するとともに、遺伝子の振る舞いや有性生殖のメカニズム、生物多様性について学ぶ。	
就業力育成	日本語読解・表現	日本語で表現することの意味を考える。心に響く名作を多岐にわたるジャンルから選び読む。言葉の魅力を音読により感じよう。日本語の魅力を発見し、しなやかな発想を育て、豊かな表現を身につけた日本人として、一生の宝を自己につくる。語彙を豊かに書き綴る。表現の力を養い充実しよう。正確な表現、わかりやすい表現、創造的な表現など、その礎を築いていく。読む、考える、書くためには国語の力を蓄えなければならない。古典、近現代の文学の洋を問わず多読、精読を試み、考える力を養う授業となる。	
	法律と経済	この講義では現代社会において法律が果たしている役割を理解するとともに、社会人として必要な経済の基本的知識を習得する。テーマとしては「大学生活と法」「労働と法」「婚姻と法」をとりあげ、付随する経済的側面にも考察の対象を広げる。具体的には、憲法を中心として、人権規定の内容を学ぶ。親族法・相続法(家族法)を中心として、婚姻、離婚、親子、扶養および相続など家族に関する制度を学ぶ。また、労働法を中心として、労働者の保護と労働条件の改善について学ぶ。	
	ソーシャルマナー	本講義は、文化を社会を構成する意味(秩序)体系としてとらえ、その下位領域としてのマナーを養成する。第一に、社会的・文化的存在である人間を理解した上で、現代社会の各局面における意味付与過程に深く分け入るとともに、その意味がもたらす作用を具体的な文脈や状況に沿って解読していく。そうした作業を通して、受講生自ら、大学の建学の精神に叶う、自立と共助のバランスがとれた人を目指すようにする。	
	キャリアデザイン	本学的就業力育成教育の導入科目として位置づける。将来の目標を見据え、大学生活をいかに卒業後の社会生活に結びつけるかを考える。ただし、そのさいいわゆる「就職教育」にとらわれることなく、まずライフコース全体を視野に入れて自己を見つめ、自分は何者なのかを他者に伝えられるようになることから始めることとする。そのうえで、いかなる大学生活を送りたいかを考え、目的意識を持って学生生活を組み立てるための基盤となるように授業を構成する。そして最後に、社会で求められる能力と心構えはどのようなものかを知るとともに、さまざまな働き方についても学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	インターンシップ	企業・自治体・NP0などでの就業体験を通じて、大学での学びを深化させる機会を得るとともに、自らのキャリアデザインを考える機会とする。事前学習や事前研修を通じて、インターンシップへの参加目的を明確にし、必要な知識やスキルを体得する。また就業体験を積んだ上で、事後研修、レポート作成、体験報告会を実施し、インターンシップ研修を振り返り、成果や今後の課題等を確認する。	
リベラルアーツ	茶道	日本の伝統文化である茶道文化に体験を通してふれる。毎回茶道の基本的な仕草の稽古、お茶の飲み方などを繰り返し学び、「型」の文化を通じて心と体を鍛える。茶道を通じて、「型の習得」から、その「型」の背後にある「心遣い・思いやりの心」を学び、コミュニケーション能力と社会性を養う。また、茶道文化に結集する伝統工芸や精神文化についても関心を深めさせる。	共同
	書道	書道を通じて、丁寧な字を書く習慣と集中力を身につける。仮名文字のもととなる字母の理解から学び、毎回手本教材の稽古を30～40分間したあと、清書にかかる。清書作品の中でもっとも上手にかけたと思うものを提出する。筆で字を書く事になれると共に、集中力を付け、次の美的表現について芸術的感性を身に付ける。書道用具の整理整頓の習慣などにも気を配れるようにする。	
	音楽	芸術作品と娯楽作品の違いは何か。その作品を、見て・聴いて・歌えば必ずその答は返ってくる。音楽芸術の美しさを、歌うことを通じて体験的に理解し、その曲の美しさや歴史的背景についても関心を養う。具体的には日本の音楽や世界の様々な音楽をとりあげ、それらを形作っている要素の働きおよび文化的・歴史的背景が曲の魅力にどうつながっているかを理解できるようさまざまな楽曲を取り上げる。また、音楽との多様な関わり方に関心をもってもらうため、テーマを決めて課題レポートを課す。	
	美術	美術教育の領域には大きく「表現」と「鑑賞」の二つがある。この授業は「表現」を通じて「鑑賞する力」を養うことをめざす。また、芸術作品の良さを「鑑賞」し、「表現」につなげるヒントを得ることも目的とする。具体的に表現においては、鉛筆デッサンおよび水彩画、平面色彩構成を取り上げる。さらに模写を通じて、名画から学び、文化的、歴史的理解を深め、発想力を養うこととする。鑑賞においては、表現で学んだことをもとに、学生それぞれが独自の視点で美術作品（他の受講生の作品含む）を捉え、感じたことを言語化する。	
	リベラルアーツ演習	一般に「リベラルアーツ」は「教養」を身につけるための学問・科目群と解されているが、本来は「人を自由にするための実際的な技術」を意味する単語である。この科目では、リベラルアーツを芸術を含む人文科学(humanities)と社会科学(social sciences)を横断的に学ぶことと定義したうえで、複合的な知識を社会的諸問題の発見と解決につなげる方法を社会体験を通じて学ぶ。また「持続可能社会論」(1年次前期必修)の展開科目として位置づけ、次年度以降の「持続可能社会論」でのティーチングアシスタントの育成も視野に入れている。	
	文学	洋の東西を問わず「文学的なるもの」は古くから存在した。しかし日本において「文学」という言葉及び概念は明治期に作られたものである。近代化のなかで「文学」というものが要請されるようになり、そしてそれと同時に日本の古典、たとえば『源氏物語』といったものも近代的な文学の概念から読み直されたという側面がある。この授業においては、人間の生き方、歴史の中での人々の苦悩や思想を、古典的な名作を精読することの中から学ぶ。特に、人間の苦悩の考察、人生の不思議への驚き、文章の背後にまで解釈を及ぼす読み方などを通じて、文学が私たちに語りかける価値の再認識を目標とする。	
	哲学	哲学の語源に当たるフィロソフィアという言葉が「知を愛する」ことを意味しているように、哲学は物事や人の存在の意味を自由に根源的に考える学問である。そして、哲学者の多くは、想像を絶する苦悩の人生を歩んだ。しかし、その苦悩の知恵から、哲学者たちは人の心を揺さぶらざるにはおかないさまざまな思想を生み出してきた。この授業では、哲学者や思想家たちの苦悩とその思想を学ぶ。	
	ジェンダー・ダイバーシティ論	本講義は、ジェンダー、ジェンダーと表裏一体を成す性とセクシュアリティ、ならびに、それらと深く関連する現代家族の三領域を客観的かつ批判的にあつかう視座を獲得することを目指す。社会的・文化的性差としてのジェンダーの定義の下、三領域の歴史的構築性を検証した上で、グローバル社会におけるダイバーシティ論が持つ是非について考えを深めていく。受講生は、とにかく思考し発言することをする。	
	共生社会と人権	グローバル化が進む今日、私たちは世界各地からの多様なニュースに接することができる。そしてその中には、悲惨な人権侵害を伝えるものも多い。この授業では、日本も含めて世界中で今も生起する人権侵害の例を取り上げ、その原因の理解と解決策について考える。具体的にはグローバル化に対する日本社会の対応、現代社会におけるエスニック・マイノリティの多様性とその現状を学ぶとともに、大学生として、また、社会人として、必要な人権感覚を身につけ、人権問題について知り、解決へ向けての展望を持ってもらうことがこの授業の狙いである。	
	日本国憲法	日本国憲法は国の基本法として、対外的には世界に名だたる平和憲法として約50年前に公布された。しかし150を越える諸国が憲法を持つ現在では、その制定年度・内容においてもはや古典的存在となっており、現代社会の要請に対し様々な矛盾も生じている。憲法学の基礎を身近な生活の中で理解し工夫していく創造力を養うため、憲法に関わる具体的事例を通して憲法の諸問題―特に人権問題―に接近し、問題解決の方向性を対話方式で考えさせる。	
健康科学	本学は「栄養」「教育」「看護」を学ぶ学部・学科で構成されている。いずれも「健康」をキーワードとする専門性を有しているが、全学教養科目である本授業においては、厚生労働省の「健康日本21」を取り上げるとともに、専門教育の学びの前段階としての健康概念・理念の理解をめざす。その際、スポーツを含む様々な身体活動を通じての超高齢社会としての日本の健康課題についても目を向けることとする。その際、とくに人生のなかで健康な期間、いわゆる健康授業延伸の方策についても取り上げる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康スポーツ	現在「健康」に関する種々の問題が我々に問いかけられている。この授業では健康の概念を理解し、身体活動を通じて次のことを学んで欲しい。①各種スポーツの理解と体力の維持、向上を図る。②グループでの責任と義務の大切さを学ぶ。③生涯スポーツの大切さを理解し経験する。また、スポーツは、個人の心身の健康管理に大きな役割を果たすとともに、集団での協働活動を通じて、社会での共同生活を営む上でのコミュニケーション作りの向上にも役立つ。本授業では、この特性をより生かせるように、バドミントン、テニス、ゴルフなどのゲーム性に満ちたスポーツを実践する。	
	こころと健康	怪我も病気もせずに人生を生き抜くことは不可能である。日常生活には、いたるところに、怪我や病気のリスクが偏在しているからである。そして多くの場合、私たちは体調不良になってはじめて、健康であることのありがたさを実感する。本講義は、私たちが、健康であるときにはほとんど意識しない「健康であること」について、さまざまな事例をとらえて検討していく。そこから日常生活と健康の関係性を考察し、私たちの日常生活に大きな影響を与えている社会のありかたと、きわめて個人的な実感であるはずの「健康であること」が密接に関連していることを確認する。	
外国語	総合英語A	グローバル社会においては、英語は国際語である。これからは英語のコミュニケーション能力が欠くことの出来ない資質として、ますます重要視されることになる。この授業では、様々なコミュニケーション場面を想定し、英語を読み、聞き、話し、書く練習をする。具体的には毎回500words程度の短文を短時間で読む。短文(数センテンス)のディクテーションを行う。ペアワークで会話練習をする。100words程度の自由英作文を書く。さらに音楽や映画を授業に積極的に取り入れ、英米文化圏の文化的、歴史的理解を深める。	
	総合英語B	英語の4技能のうち、とくにライティングとスピーキングに重点を置き、コミュニケーションのための英語を習得することを目標とする。具体的には毎回500words程度の短文を短時間で読む。短文(十数センテンス)のディクテーションを行う。ペアワークで会話練習をするとともに例文の暗記をして英語のリズムをつかむ。200words程度の自由英作文を書く。さらに音楽や映画を授業に積極的に取り入れ、英米文化圏の文化的、歴史的理解を深める。さらに異文化理解という観点から日本について考え、英語で日本文化の特徴を語ることを目指す。	
	英語コミュニケーションA	<p>The aim of this course is to improve and build upon the students' ability to use English in practical daily situations. The main focus will be on speaking and listening practice. Students will work individually and cooperatively to practice. In addition, students will have an opportunity to improve their vocabulary, reading, and writing skills. Students will become better at/ the simple present and present of "be" / responses with "too" and "either" / using "can / can't", "love", "like", and prepositions.</p> <p>この授業では、日常生活における英会話能力を向上させる。スピーキングとヒアリングの練習が中心となる。さらに、語彙力、読解力、英作文の力を身につける。 「be」「too」「either」「can/can't」「love」「like」を用いた表現方法を学ぶ。</p>	
	英語コミュニケーションB	<p>The aim of this course is to improve and build upon the students' ability to use English in practical daily situations. The main focus will be on speaking and listening practice. Students will work individually and cooperatively to practice. In addition, students will have an opportunity to improve their vocabulary, reading, and writing skills. Students will become better at: using infinitives for reason, giving advice and making suggestions/ using the possessive and asking "Whose...?" questions/ understanding the order of adjectives/ using "one" and "ones" as pronouns/ describing locations/ using the past continuous and reflexive pronouns/using comparative adjectives and "more", "less", and "fewer."</p> <p>この授業では、日常生活における英会話能力を向上させる。スピーキングとヒアリングの練習が中心となり、さらに、語彙力、読解力、ライティング力を身につける。また、感情の表現、アドバイスや提案の仕方、質問の仕方、形容詞の順序、代名詞としての「one」と「ones」の違い、位置の説明、過去形、比較級を理解する。</p>	
英語コミュニケーションC	<p>This class will help students improve their English conversation skills. Clear training in how to speak English like a native speaker will be given. Students will understand the differences between Japanese and Western cultural speaking styles in order to communicate more effectively. Students will also spend a lot of time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year.</p> <p>英会話のスキル向上に役に立つ授業である。ネイティブスピーカーのように英語を話すトレーニングを実施する。学生は、より効果的にコミュニケーションをとるために、日本語と西洋文化的な話し方の違いを理解する。また、語彙と日常生活のトピックスについて話す時間を多く費やすので、熱心に取り組めば、授業終了までには当初より、より流暢に、正確で複雑な表現で英語を話すことができるようになる。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
	英語コミュニケーションD	This class will help students improve their English conversation skills. Clear training in how to speak English like a native speaker will be given. Students will understand the differences between Japanese and Western cultural speaking styles in order to communicate more effectively. Students will become better at talking about a) their free time and future hobbies. b) music, movies, TV, reading, and games. c) food, meals, food they like/dislike, exotic foods, and eating out. d) imagining their lives in the future, discussing life issues, and their dream job.  英会話のスキル向上に役に立つ授業である。ネイティブスピーカーのように英語を話すトレーニングを実施する。学生は、より効果的にコミュニケーションをとるために、日本語と西洋文化的な話し方の違いを理解する。学生は、次のことがより上手に話することができるようになる。a) 余暇と趣味 b) 音楽、映画、テレビ、読書とゲーム c) 食べ物、食事、好き嫌いな食べ物、エスニック、外食 d) 未来のことを想像し、生活のことや憧れの仕事について話し合う。			
	英語コミュニケーションE	英語コミュニケーション及び総合英語各科目の成果を踏まえて海外において英語研修を実施する。現地ではホームステイを行うとともに、さまざまな課外授業にも積極的に参加する。具体的には夏休み期間中のイギリス研修、春休み期間中のニュージーランド研修のいずれかに参加し、英語のみならず異文化についても学ぶ。さらに、参加大学の所属する学部・学科専門教育に関連した見学も実施する。いずれにせよ、英語を現地で実際に使ってみることで、各自が英語力を確認するとともに、さらなる英語学習の意欲につながることを狙いとする。なお、安全対策を含む事前学習を徹底的に行うとともに、帰国後は英語によるプレゼンテーションを事後学習として行う			
	ハングル I	日本と地理的に一番近く、歴史的・文化的にも非常に深い関係を持つ大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）の言葉（韓国では韓国語、朝鮮では朝鮮語と呼ばれる）を書き表す文字を「ハングル」という。ハングルは15世紀になって、朝鮮語を書き表す文字がないために困っている民衆を見た時の王、セジョン大王が、学者たちとともに科学的に考案し、民衆に広めた文字である。本講義では、ハングルの読み方・書き方、朝鮮語（韓国語）の簡単な会話を学習するとともに、ビデオ鑑賞などを通じて、日本と関係の深い韓国・朝鮮および在日韓国・朝鮮人の社会・歴史・文化への理解を深める。			
	ハングル II	ハングルの読み書きができることを前提として、朝鮮語（韓国語）の基礎的な文法について学習する。朝鮮語（韓国語）の語順は日本語とまったく同じであり、文法も日本語と非常に似ている。基礎的な文法を学習し、辞書を用いて、朝鮮語の文章を日本語に訳したり、自分のことが朝鮮語で話せるようになることをめざす。また、毎時間、単語や簡単な日常会話を覚えていくようにする。さらには、ビデオ鑑賞などを通じて、日本と関係の深い韓国・朝鮮および在日韓国・朝鮮人の社会・歴史・文化への理解を深める。			
	中国語 I	はじめて中国語を学ぶ学生が、学期末には中国語で簡単な会話がこなせるように、標準中国語（普通話）の正確な発音と基本的日常語彙の習得につとめる。具体的には、基本的なピンインの読み方、書き方、声調について学ぶ。また、判断文、形容詞述語文、数量詞、動詞述語文などの基礎文法を学ぶ。授業においては、語学学習という気負いなく、音とリズムに親しみながら外国語を身につける手引きをする。発音練習等に重点を置いた授業となるが、随時簡単な小テストを行い、授業態度とあわせて評価対象とする。			
	中国語 II	前期に続いて中国語の会話練習を行うと同時に、基本的な文法事項を習得し、自分が言いたいことを簡単な中国語で表現できるようになることを目指す。授業では中国の映画やドラマも積極的に視聴し、中国人の暮らし方や考え方についての理解を深めることも大きなねらいである。習得目標としては常用の400単語前後を習得し、常用句型としては40個くらいを使いこなせることをめざす。本講義で中国語による自然なコミュニケーションを体得し、より高度な語学学習への手引きとしてほしい。			
専門科目	基礎科目	教職基礎	教育原理	人間にとって教育とは何かを考える。教育の基本的概念、教育思想、教育の歴史の変遷、学力論、教育内容、教育制度、教育評価、生涯学習など多様な視点から教育について理解し、人間にとってより良い教育とは何かを多面的、具体的に考える。授業の中では、最初に教育の基本的概念や教育の本質・目標について、次に教育の歴史的な展開過程と家庭・学校・社会との関係について、最後に教育に関する多様な思想と歴史の変遷について等について取り扱う。	
		教師論	教師論	教職への関心を高め、教職についての基本的な知識や幅広い視野を持たせるため、小学校教員及び教育委員会での実務経験に基づき、以下の点について、理論的・実践的な指導を行う。 1. 求められる教師像を多面的に考察しながら、教職の意義、教員の役割と責任、身に付けるべき資質・能力などの理解。 2. 学校教育の内容、教員の職務内容、服務義務など、教員をめざす者として必要な知識理解。授業では、学修者の能動的な学修への参加を重視するため、事前学修に基づいたグループ協議、発表、ディスカッション等を取り入れたアクティブ・ラーニングを進め、教師論に関する学びを深め、自ら研鑽を積むことができるよう指導を行う。	
		発達心理学	発達心理学	子どもを支援する際に必要な発達と学習の過程に関する基礎的事項について解説する。主に乳児期から青年期までの発達と、発達をもたらす内的・外的要因について学ぶと共に、子どもの主体的な学習を支えるために必要な学習心理学の知識を発達の観点から学ぶ。また、子どもと大人（親・保護者・教員）、子どもと仲間との相互作用の重要性を学び、発達段階に応じた関わりや支援について学ぶ。子どもの心身の発達及び学習の過程や発達段階に応じた関わり方について説明できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別支援教育	特別な支援を必要とする児童生徒の理解とアセスメント、特別支援教育の制度を理解する。障害があっても過ごしやすい環境（心理特性と学習過程）や自閉スペクトラム症、ADHDとLDを中心にした発達障がい、知的障害、視覚聴覚障害、肢体不自由のある児童生徒の個々の障害や特別なニーズの理解と教育の現場での支援方法について学ぶ。またゲストスピーカーとして障害当事者の経験を聞くことや、実際に障害者アートの触れるなどの学外研修を通じて、インクルーシブ社会のあり方について考える。	
	教育の方法と技術	知識基盤社会の到来や持続可能な発展と教育の関わりなどを見据え、子どもたちの主体的、協同的な学びを支える視点を重視して教育方法と技術について究明し、基礎理論や諸課題の解決、具体的な授業づくりに必要な力を身につける。また、ICTを活用した取り組みや問題点等の理解を深める。21世紀の社会を担う子どもに必要な資質・能力を育成するため、教育方法の基礎的理論と実践の有り方等を理解し、授業の構成要件や学習評価などについて認識を深める。学習指導理論を踏まえ、教育目的に適した指導技術の理解と学習指導について考え立案できることや、質の高い授業や情報活用能力の育成を視野に入れ、情報機器の活用と指導力を身につけることを目指す。	共同
	保育内容(総論)	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域とは、子どもの発達を見る視点として、発達の側面とのかかわりで考えられており、相互に密接な館れを持ち「相互性」と「総合性」を前提としている。発達の各領域をそれぞれの子どもの育ちを見る視点と捉え、子どもの活動を総合的に考え、それに対して保育者としてどのようにかかわっていけばよいのか、これからの幼児教育・保育について深く考える。	
	音楽表現Ⅰ	幼児期に経験した音楽表現活動は、その後の人生も豊かにする要素を含んでいる。そのことを念頭に置き、乳幼児期の心や身体発達の過程を理解しながら、様々な音楽表現の実践に取り組む。また、実り豊かな音楽表現活動を展開するために、音楽の基本的な知識や技能を学ぶ機会を設ける。個人・グループでの発表を積極的に取り入れ、自らの思いを伝え表現することや、相手の思いや表現を理解したり、共感することについて考察し、その向上を図る。	
	音楽表現Ⅱ	音楽表現Ⅰをふまえ、子どもの歌やリズム表現・身体表現・言語表現などの表現活動の教材や遊びの選択・指導方法について解説する。さらに、教材作成とその活用方法、環境構成・保育展開に関する実践的な技術を指導する。最終的には総括としての創作劇遊びを、学生自らが構成・脚色・実践できるように指導する。子どもの遊びやイメージを豊かにするための音楽表現の役割を理解・分析し、どのように保育・教育の場に活かしているかについての方法を工夫することができることを目指す。	
	造形表現Ⅰ	子どもの造形表現に必要な様々な環境、道具、教材等への理解を通し、保育、教育実践に必要な絵画や工作などに関する基本的知識と技能を身に付けるために作品に取り組む。素材の特性を生かした多様な表現技能、造形材料と道具の関係を習得するとともに生活の中に様々な絵画・造形素材を見出し、それら造形物の展示の方法、視点を学び、子どもの豊かな造形表現を促進・援助するために必要な知識や技能を習得する。保育者・教育者の感性と創造力が子どもの造形活動への理解と支援に繋がることを実感し、造形表現指導に必要なとされる知識と技能の修得及び構想力、実践力を養い身につけることができるようになることを目指す。	
	造形表現Ⅱ	Ⅰに引き続き子どもの造形表現に必要な様々な環境、道具、教材等への理解を通し、保育、教育実践に必要な絵画や工作などに関する基本的知識と技能を身に付けるために作品に取り組む。素材の特性を生かした多様な表現技能、造形材料と道具の関係を習得するとともに、生活の中に様々な絵画・造形素材を見出し、それら造形物の展示方法や視点を学び、子どもの豊かな造形表現を促進・援助するために必要な知識や技能を習得する。造形表現Ⅰにて学んだ造形素材、道具を生かし児童に提供する具体的な「造形遊び」の立案から制作を行うことができるようになることを目指す。	
保育基礎	器楽演習Ⅰ	保育及び初等教育の現場では、鍵盤楽器（ピアノ）の演奏力が大変重要である。この授業では、個人の技能に適した教材・楽曲を選び、ピアノの個人指導を行い、それぞれの演奏力を向上させる。読譜力、指使い、テンポやリズム感、強弱などの表現、楽曲の解釈など音楽の基礎を理解し、演奏力や音楽性を高めることにより、弾き歌いや伴奏付けに繋がる技能を習得できることを目指す。楽典ドリル、個人及びグループでの実技指導や試験課題曲の個人及びグループ実技指導を中心に進める。	共同
	器楽演習Ⅱ	保育及び初等教育の現場では、鍵盤楽器（ピアノ）の演奏力が重要である。この授業では、弾き歌いのクラス、ピアノレッスンのクラスの2つに分ける。弾き歌いのクラスでは、子どもの歌を用いて、簡単なコード学習を行い、基礎的な弾き歌いの演奏力を身につけさせる。ピアノレッスンでは、器楽演習Ⅰに引き続き、個人の技能に適した教材・楽曲を選び、個人指導を行い、ピアノ演奏力を向上させる。読譜力、指使い、テンポやリズム感、強弱などの表現、楽曲の解釈など音楽の基礎を理解し、演奏力や音楽性を高めることにより、弾き歌いや伴奏付けに繋がる技能を習得できるようになることを目指す。	共同
	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉とは、子ども（児童）が健全に成長発達できるようにその権利と生活を保障する国や地方自治体、社会全体の対応、社会的活動の総体といえ、子どもの福祉の実現には家庭支援が必要であるという認識が含まれている。家庭での子どもの養育が困難にならないように支援する予防的な対策から、養育が困難になった際の対応まで、子どもとその家庭に対する社会的支援体制、理念、各分野の法制度、実態について広く学び、基本的知識を得られ、説明できるようになることを目指す。	
	保育原理Ⅰ	保育の意義、目的、内容、方法、形態、環境、保育計画について考察し、環境を通して興味関心を引き出し、自発的活動を援助する保育のあり方や保育者としての基本姿勢を学ぶ。現代の子どもを取り巻く状況、保育の思想と歴史、保育制度と法律、子どもの権利条約や世界の保育動向を理解し、保育に関する幅広い視野を養い、子どもの発達にとってより良い保育のあり方を考える。保育の基本概念を身につけ、子どもにとってより良い保育について自身の見解をもつことができる、保育の意義を歴史的、社会的視点から捉えることができる、保育者として課題解決に向かう姿勢や、保育ニーズに対応する力を総合的に学ぶことができるようになることを目指す。	
	子どもの保健	子どもの身体的な発育や発達、また子どもがかかりやすい病気やよく起こる事故について講義し、個々の状態に応じた適切な対応が取れるようにする。子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について、子どもの身体的な発育や発達と保健について、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について等の内容をそれぞれ取り扱う。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹科目 小学校 (幼保育含む)	教育心理学	保育・教育に携わる上において、対象となる乳幼児・児童の発達・成長や心のしくみについて学んでおくことはとても重要なことである。本授業では、教育実践の中で起こってくるさまざまな事象や現象を取り上げ、グループワークも取り入れながら、教育心理学の基礎知識を概説していくこととする。授業では、保育・教育に関する教育心理学の基本的な理論や概念について理解を深めること、教育心理学の基本的な知識をベースに、その視点を生かし、乳幼児期や児童期の子どもたちに関わっていくための態度を身につけること、乳幼児期、児童期の子どもたちの発達のな問題について、保育・教育実践現場で具体的な支援方法を考えていくための基礎的な力を身につけることを目指す。	
	教育課程論	本講義では、教育課程に関する基本的な概念や編成原理について学習する。また、背景理解を深めるために、日本における教育課程の歴史の変遷を学ぶ。さらに、小学校学習指導要領と幼稚園教育要領をもとに、近年重視されているアクティブ・ラーニングやICTを活用した教育課程のあり方、カリキュラム・マネジメントなどを取りあげて、時事的な問題を交えて考察する。教育課程の意義や編成原理についての基本的な事項を理解し、説明できること、また、教育課程の歴史について基本的な事項を理解し、説明できること、さらに、近年行われている教育改革の流れについて、教育課程の視点から考察し、自らの意見を述べるができるようになることを目指す。	
	教育制度論	現代の学校教育(公教育)に関する制度的事項について、法令など含む基本的な事項の知識を取り扱うとともに、現代的な教育課題についても理解をすすめる。またこれからの学校の地域連携や学校安全、チーム学校の有り方について新聞記事等を毎回分析することを通じて身近な問題として理解させる。アクティブラーニングの観点から、関連事項についてディスカッション等へつながる意見交換を授業内で積極的に取り入れる。現在の教育を支える制度について簡単な説明ができること、制度に関わる基礎的な法規について説明できること、現代的な教育課題について一定の知見を持つことを目指す。	
	教育相談	昨今教育現場では、いじめ、不登校、虐待、非行、校内暴力、学業、進路や生活上の諸問題のみならず、心の病、特別支援教育等への多岐にわたる対応が求められる。そのため、教育相談活動において、教員自身もカウンセリングの知識を基にした対応や多角的な視点が求められる。そこで、本授業では、教育相談における知識や基本的な態度、留意点などについて事例を交えながら紹介し、考えていきたい。教育の実践現場における教育相談の意義を理解し、基本的な技法を学ぶ。授業では、教育相談場面での子どもや保護者の心のあり様を理解するための姿勢について理解を深めること、子どもや保護者の有する困りごとへの理解を深め、具体的な対応や援助について、自ら思いを巡らせ、実践的に考えていこうとする姿勢を身につけることを目指す。	
	生徒指導・進路指導	一般に「生徒指導」という言葉は、小学校の子どもたちには馴染みのあるものともいえないが、いじめ、学級崩壊、不登校など、さまざまな「生徒指導上の問題」が小学校でも存在する。そこで本授業では、受講生それぞれの「生徒指導」にまつわる体験を振り返るとともに、学習指導要領等を参照する中で、進路指導とともに、その積極的な意義等を理解する。これを踏まえ、学級経営をはじめ集団全体に対する指導、個別課題での個々への指導、そのために重要な教職員の同僚性、地域や関係機関との連携など、生徒指導・進路指導の基本的な考え方や方法を理解する。	
	道徳教育指導論	道徳教育は人間尊重と教育の根本精神に立脚し、より良く生きる基盤となる道徳性の育成を目指す。本授業では、道徳の意義や原理を踏まえ、道徳性の発達と涵養について理論的な見地から認識を深め、道徳教育及び道徳科の授業の目標、指導内容と方法、評価に関する基本的な事項について理解をはかる。また今日までの道徳教育の歴史を見据え、モラルジレンマや構成的グループエンカウンター、問題解決学習等の多様な手法を取り入れた事例を通して、考え議論する授業づくりなど実践力の育成をはかる。	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	本講義は、特別活動および総合的な学習の時間の科目特性と内容、またその他教科、領域との関連について取り扱う。特別活動および総合的な学習の時間の要点として、「望ましい集団活動」「自主的実践的態度の育成」「人間としてのあり方、生き方の自覚」「教科横断的学習」等について考えを深め、授業実践の力を模擬授業等を通じて養う。特別活動の科目特性が説明できるようになること、望ましい集団活動とは何か、自主的な態度とは何かについて、自分なりの見解をもち、指導案に生かすことができるようになること、自身が自主的に活動することを通じて、経験を得たり新たな価値観に気付いたり仲間と問題意識を共有することの意義について理解する事を目指す。	
	児童算数	学校の算数科では、数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身につけるとなっている。また、日常事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力、活動の楽しさや数理的な処理のよさを進んで生活に生かそうとする態度を育てるとされている。この授業では、学習指導要領にもとづき算数科の各学年における内容(「数と計算」・「図形」・「測定」・「データの活用」)を学ぶとともに、基礎・基本となる内容の指導方法を考える。	
	児童国語	小学校国語科の教育内容について理解できるようにし、初等教育教員として必要な国語の力の向上を図る。小学校教員の実務経験を生かし、国語科教育の具体的な実践例を交えた授業を行う。説明文、意見文、手紙文、詩など様々な文に触れながら、小学校国語科の教育目的と教育内容を理解することができ、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」等を通して、小学校国語科教育における基礎的な知識と技能を身に付けることを目指す。その際、話し合い活動やグループによる討議も取り入れる。	
	児童生活	生活科の教科目標は「具体的な活動や体験を通して「自立への基礎を養う」ことにある。教員の幼稚園における実務経験から、生活科の目標である活動や体験を通じた学びについて、実践事例や実際の活動を通して、教科の目標・内容をはじめ子どもの発達段階等について学ぶ。更にスタートプログラムにおける生活科の重要性と意義についても理解する。また実際の活動や具体的な指導事例、授業等の観察により「自立への基礎」や内容を構成する各視点について考える。	
児童社会	小学校社会科の目標は「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として、必要な公的資質の基礎を養う」ことにある。このねらいに迫る小学校社会科の指導内容と方法について実践例を交えて学ぶ。また国土の地理的環境や産業と国民生活との関連、我が国の歴史などについて各学年で使用する教材や基礎的資料の分析、活用を通して理解を深め、指導力を高める。教科の目標を踏まえ、児童の発達段階に応じた小学校社会科の学習内容と方法を理解して指導に活かすことができ、また小学校4年間で扱う社会的事象等について、地図、統計その他様々な資料をもとに考察し、説明ができることを目指す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	児童理科	①小学校理科の学習内容全単元の目標や学習内容を理解する。 ②自然科学の4分野(物理・化学・生物・地学)の基礎を学ぶ。 ③理科学習の授業づくりや観察・実験等の指導法を学ぶ。 授業を通して、学習指導要領に示されている小学校理科の目標や内容を理解することができる、理科の学習指導に必要な自然科学の基礎的な知識・概念を身に付けることができる、小学校理科の指導に必要な観察・実験の技能及び指導力を身に付けることができる等を目指す。	
	児童家庭	小学校家庭科の学習内容全般について講義や、実習で体験をしながら基礎的な理解を図る。家庭科教育の意義、目標、内容、歴史などの基礎的な事柄の理解と家庭科の実践に関する内容の習得をめざす。今後の家庭科教育の課題展望についても考察する。授業では、「家族・家庭生活」「食生活」「衣生活」「住生活」「消費生活・環境」について取り扱い、持続可能な社会に向けて、家政全般の意義・役割を理解することができ、小学校家庭科の指導時に必要な基礎的事項を身につけることを目指す。	
	子ども音楽	・保育や幼児教育、小学校教育の現場で取り込まれる音楽教育の内容に多く触れることを通して、乳幼児期や学童期の子どもにとっての音楽の楽しさ、そしてその意味と影響について解説する。 ・音楽教育を指導する際に必要な音楽に関する基礎的な知識について講じ、その上で歌唱教材や器楽教材に関する知識や技能、及びその指導法を解説する。 ・音楽指導において有効な弾き歌いの知識や方法について講じ、実際の演習を通して身につくようにしていく。	
	子ども造形	子どもの造形活動の必要性を理解し、豊かな造形表現を促進・援助するために必要な知識や技能を習得する。1歳児の絵の特徴、2,3歳児などの絵の特徴を理解すると共に、4,5歳児の構造的な造形能力の発達、さらに学童期の子どもにおける造形能力の発展を理解する。これを踏まえ、生活の中に様々な絵画・造形素材を見出し、素材の特性を生かした多様な表現技能を習得するとともに、それら造形物の展示の視点や方法を学ぶ。子どもの造形表現活動の必要性と特長を理解と表現技術を習得し、自らも表現し実感を持つことで様々な方法で実践できることや、子どもに支援する立場となり、子どもの表現を受け止める力を持つことができるようになることを目指す。	
	子どもスポーツ	乳幼児の発育発達の段階を理解し、年齢に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている現状を把握し、現代の子ども達にどのような運動が必要であるかを考え、指導する力を身につける。それだけでなく、子ども達が動きたくする環境構成とは、どのようなものであるかを考える。授業では、子どもの発育発達に沿った運動遊びを知ることができる、運動遊びの指導方法を考えることができる、創意工夫を身につけることができる、自分自身の体力を知ることができる、などを目指す。	
	子ども英語	この授業では、子どもに英語を教えるための基礎知識と技能を習得する。まず、児童英語教育の歴史を学び、小学校に英語教育が導入された背景と意義を理解する。次に英語に関する基本的な事柄(音声・語彙・文法・文の構造、正書法)と子どもの第二言語習得過程について理解する。充実した英語活動ができるように、子ども向けの英語の歌や詩、英語の絵本に幅広く触れ、英語のゲームやアクティビティを実践し、現代における多文化社会と異文化理解についても基本的な事柄を学ぶ。	
	国語科教育法	小学校教員としての経験を生かし、小学校国語科授業の実践事例を教材化し、小学校国語科教育の目標、内容、方法についての知識・技能の習得を目指す。特に、教材研究、学習指導案作成、模擬授業、授業分析等を通して指導技術の育成を図る。授業では、教材研究を通じて小学校国語科教育の目標、内容、方法を理解することができるようになる、教材研究や学習指導案作成、模擬授業、授業分析の技術を身に付けることができるようになること等を目指す。	
	社会科教育法	知識基盤社会の到来や持続可能な発展などの現代的課題を見据え、小学校社会科の目標や指導内容、指導方法、評価等について基本的な知識、技能を修得すると共に教科の本質について考え、カリキュラム編成について学ぶ。また授業観察や授業分析、学習指導案作成、模擬授業、情報機器の活用、ワークショップ等の体験的学習を通して指導力を高める。授業では、学習指導要領における社会科の目標や内容、教科の教育課程上の意義、留意点などについて理解し、小学校社会科の授業を構想して指導、評価するための基礎的な力を修得すること、授業理論や背景となる学問領域等を踏まえて教材研究を行い、社会科学習指導案が作成できること、子どもの発達段階等を視野に入れた授業設計の重要性を理解し、授業改善の視点を身につけることなどを目指す。	
	算数科教育法	算数教育に対する数学的背景・理論・指導法等の理解と、それらを活かした教材研究ができるように基礎的な知識、基本的技能及びその考え方について考察する。授業では、算数の目標、各領域のねらい・内容とその指導法について説明できること、児童の発達段階や実態に応じた授業構成の基本的な考え方を理解し、それを授業設計に活かすことができること、算数科の授業研究を行うことができるとともに、その授業計画を他者に理解しやすい形で説明することができることを目指す。	
	理科教育法	①テキストを使って小学校理科の目標や内容及び指導法等について学ぶ。②学習内容の基本的な観察や実験を行い、自然体系の基礎概念や授業作りについて学ぶ。③学習指導案を作成し、実際に授業(模擬授業)を行い、主体的に授業研究の方法や授業実践を学ぶ。授業では、学習指導要領に示された小学校理科の目標や内容を理解すること、学習指導理論や指導法を理解し、授業設計(カリキュラムマネジメント)を行うことができること、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができることを目指す。	
	生活科教育法	①学習指導要領[生活科]の目標や内容を理解し、具体的な体験や活動を構想する(カリキュラムマネジメント) ②構想した体験や活動を実際に行う。(物づくり、遊び、地域の自然や社会での体験、人々との交流等) ③活動事例の学習を活かして、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 授業では、学習指導要領に示されている生活科の目標や内容を理解すること、地域や児童の実態に応じた単元構想力(カリキュラムマネジメント)力を身に付けること、生活科の学習指導理論や指導法を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	音楽科教育法	小学校学習指導要領を通して、小学校音楽科の目標及び指導内容や教材、評価の方法について理解し、音楽科授業の設計方法や授業実践力を身に付ける。その方法として、音楽的な知識や技能を身に付けながら、各学年の目標に合った学習指導案を作成し、模擬授業を行う。授業では、小学校音楽科学習指導要領の内容を理解できること、各学年の目標を理解し、音楽科学習指導案を作成できること、各学年の表現(歌唱・器楽・音楽づくり)、鑑賞の指導に必要な音楽的知識を身に付けること、模擬授業を通して、授業を組み立てる力を身に付けることを目指す。	
	図画工作科教育法	「表現」と「鑑賞」の両領域に関する実践事例を通して、指導者として必要な基本的事項の理解と幅広い造形文化に関わる人間形成に不可欠な美術教育として捉える視点を養う。障害のある児童への理解を通じた児童の特性への理解を深めた教材研究を行い、実践的な指導力を身につける。小学校学習指導要領の目標及び内容をふまえ、「造形遊び」「絵に表す」「立体に表す」「工作に表す」等の「表現」と「鑑賞」の造形表現活動の分野における基礎的な内容と実践的な事例についての学習を通して教科の基礎的な特性について幅広く理解し、教材研究を行うことができるような能力を養い、「指導内容」「指導方法」「評価」の点から理解から学習指導の基礎的な知識・技能を高めることができることを目指す。	
	家庭科教育法	小学校家庭科の学習指導に必要な知識と技能の習得を目指す。指導方法の研究、指導計画の立案とその実践、結果の評価や改善など、一連の教育活動を通して指導していくことができる能力の育成を目指す。授業では、学習指導要領 家庭の内容を理解することができる、家庭科の1～2時間の授業について指導案を作成することができる、家庭科授業に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得することなどを目指す。	
	体育科教育法	各学年の体育科の目標及び内容を理解する。その場合、地域や学校の実態を考慮すると共に、個々の児童の運動経験や技能の程度などに応じた指導や児童自らが運動の課題の解決を目指す活動が行えるように工夫する。目標を低学年、中学年、高学年の3段階に分けて設定し、指導計画案の作成、実践、反省のための時間を設けて学生各人が児童役、教師役となり実践を経験しながら学ぶ。心と体を一体としてとらえることを重視し、豊かなスポーツライフの実現及び自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を培うことを目指し、「運動に親しむ資質や能力の育成」「健康の保持増進」「体力の向上」が相互に密接に関連している事を理解することを目指す。	
	英語科教育法	本講座では、小・中学校での実務経験がある教員が、言語習得と小学校での外国語活動及び外国語科の指導のあり方を指導する。授業は、受講生の事前課題の発表・模擬授業と、それらに関わる Q & A 及び、ディスカッションを行うアクティブラーニングとし、小学校での英語授業の行い方を具体的に学ぶ。2020年度より全面実施となった小学校「外国語活動」「外国語科」の授業をどのように行っていくかについて、具体的に学ぶ。本講座は、講義と演習により、小学校教員として「外国語活動」「外国語科」を指導していくための理論に基づいた基礎知識と、英語授業力の基礎を身につけることを到達目標とする。	
幼稚園 (保育含む)	子ども理解と教育相談	教育や保育の現場において教員や保育者が行う子どもの心理的援助について学ぶ。教員の学校現場でのスクールカウンセラーとしての実務家経験から、子どもの発達課題と心理への理解を深め、幼児教育の現場において子どもを支援するために必要な基本的知識について学ぶ。授業では、子ども理解に基づいた教育相談について、子どもの生活や遊びの実態に即して、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまづきに対する支援について説明できるようにすることを目指す。	
	幼児と健康	「健康とはなにか」という大きなテーマについて考え、乳幼児期の発育発達の観点から子どもの健康を守り育てるための援助方法や、環境づくりについて学ぶ。各回のテーマに沿って、個人での文献調査と、グループディスカッションの実施により、保育者の役割を考えていく。	
	幼児と人間関係	領域「人間関係」の理解の基盤となる、幼児期の人と関わる力の育ちに関する専門領域について学ぶ。現代の社会的背景と幼児の発達を踏まえ、様々な人間関係の中で人と関わる力がどのように育つかを解説する。	
	幼児と環境	幼児が保育現場で体験する様々な環境との関わりと保育者の援助の重要性について、授業内における実体験を通して幼児の発達とを結びつけながら理解を深める。また、理解したことを基に指導案の作成・模擬保育・振り返りを行うことで、「環境」を通じた具体的な遊びの指導が展開できるようにする。	
	幼児と言葉	言葉の意義・機能、幼児の言葉の発達過程、教師の役割・援助を理解できるようにする。児童文化財の異議を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践に関する知識・技能を身に付けることができるようにする。	
	幼児と表現	事例やICTを活用し、少しでも多くの幼児の表現活動の具体的な姿に触れ、その表現をいかに受け止め、共感するべきか、又そうすることの意義について示す。表現に不可欠であるところの子どもが感じ取るものとして環境の捉え方及びその環境構成の重要性を解説する。乳幼児の自由な発想や表現を受け止め共感できる学生自身の豊かな感性を育成する。	
	保育内容(健康)	保育内容「健康」の意義をとらえる。子どもにとっての健康とは何かを様々な観点からとらえ、保育現場における健康教育はどうあるべきかを考える。授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「健康」に示された観点から、乳幼児期の健康教育についての学びを深める。また乳幼児期の心身の発達段階を理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために「主体的・対話的で深い学び」ことができる保育を考える視点を獲得する。そして現代社会における乳幼児の心と体の発達に影響を及ぼす様々な問題点を認識し、保育の場での望ましい援助や、保育者としての指導のあり方と安全な保育について理解を深める。	
	保育内容(言葉)	乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、領域「言葉」のねらいと内容について学ぶことができるようにする。豊かな言葉の育ちのために必要な保育者の態度、関わり、環境について考えて指導案作成や模擬保育に取り組むことを通して、具体的な保育実践の方法を身に付けることができるようにする。授業では、乳幼児期の言葉の発達過程を説明することができる、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえた上で指導案を作成することができる、子どもの発達段階に合った保育者の態度、関わり、支援を理解し、実践することができる用になることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保育内容（人間関係）	本講義では、子どもが「自分」という存在を生き生きと形成していくプロセスにおいて必要不可欠な他者との関わり合いの体験を、保育や幼児教育の実践においてどのように豊かなものにしていくかについて学ぶ。授業では、乳児の発達と人間関係、幼児の発達と人間関係、子ども集団の中での育ち等について取り扱い、子どもの育ちにおける人間関係の重要性を理解し、良好な人間関係を築く力を育てるために必要な指導と配慮について説明できるようにすることを目指す。	
	保育内容（環境）	幼児の成長発達において、環境の果たす役割は大変重要である。幼児は、様々な環境（人、物、自然、事象等）と出会い、その影響を強く受けながら成長発達を遂げていく。本講義においては、教員の幼稚園における実務経験から、幼児が出会う身近な環境や保育における意図的な環境と成長発達との関連について、実際の保育現場での事例を提示して、保育現場における環境に対するイメージを明確にすることで、子どもの育ちを意識し意図的な環境構成について実践に基づいた知識と技術を獲得することを目的とする。	
	保育内容（表現）	子どもは、日常生活の中で常に何かを感じ、その子どもなりのいろいろな方法で表現している。子どもの表現活動とはどういうものなのか。本授業では、一般的な「表現」の捉え方ではなく保育における領域としての「表現」の考え方について、25年以上の実際の保育現場での経験・知識を加味して解説する。さらに、その「表現」に不可欠であるところの子どもが感じ取るものとしての環境の捉え方及びその環境構成の重要性を解説する。また、保育現場で子どもの生き生きとした表現を引き出すための具体的な方法や留意点・援助についても解説し、子どもの表現がさらに豊かになるための実践力を修得できるよう、個人又は複数での演習や模擬保育を行う。その中で、乳幼児の自由な発想や表現を受け止め共感するための学生自身の豊かな感性を育成する。	
保育	社会福祉論	私たちの日常生活に深く関わる社会福祉の役割、地域の様々な生活問題と支援について学習する。社会福祉の各制度の概要、福祉の関わりを学習する。授業では、社会福祉の考え方について、その対象やニーズ、援助原理、歴史的展開、現在の状況、行政の仕組み等について取り扱い、社会福祉の理念、基本的な理論、実践を理解した内容を説明できる。社会福祉を身近なものとして捉え、社会福祉の各制度、関わりについて理解した内容を説明できるようにすることを目指す。	
	社会的養護Ⅰ	さまざまな理由で家族とともに生活できない子どもたちがいる。乳児院・児童養護施設などの児童福祉施設や里親家庭などの社会的養護のシステムは、家族と暮らせない課題を抱えた子どもたちや家族を支える目的をもち、子どもたちの安全で安心できる生活を整え、家族とともに再び生活できるよう支援するとともに、子どもの成長と自立を援助するものである。本科目では、これら児童福祉施設や里親の養護に関する法制度や仕組み、施設の集団生活における子どもたちの実状や課題、施設で子どもたちに関わる専門職者の役割や援助の特徴などの基本を学習する。	
	子どもの理解と援助	本講義では乳幼児期の心身の発達理論を文献購読により把握するとともに、インクルージョン保育の視点から保育場面の「問題行動」の理解と支援について学ぶ。また保育心理学で注目されるビジョントレーニングなどの手法を体験的に学習する。授業では、乳幼児期の心身発達理論の基礎的知識を説明できる、保育時の行動観察法の手法でレポートが書ける、発達障がいへの対応法を説明できるようにすることを目指す。	
	保育の計画と評価	幼稚園・保育所の教育課程・保育課程の目的、内容、計画、支える行政・制度について学ぶ。さらに、児童の心身の発達や興味・関心に応じた具体的計画としての指導計画（長期的、短期的）の作成について学ぶ。授業では、幼稚園教育課程、保育所保育課程の全体構造を理解し、保育の計画の必要性やその意義を説明できること、教育課程・保育課程の編成から指導計画の作成－保育の実践－省察と評価－再構成といった一連の過程を理解し、説明できること、長期指導計画、短期指導計画の実際を、資料に基づいて解説することができるようにすることなどを目指す。	
	乳児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰは、保育士資格取得のための必修科目の1つであり、保育の内容・方法に関する科目である。3歳未満児の子どもたちは成長するうえで心身ともに著しい発達を上げる。また、人格形成の基礎をつくる重要なものでもある。そのような乳児期の子ども達の保育である乳児保育の基本についてテキストや資料を通して学んでいく。また、3歳未満児を対象とした「絵本」や「わらべうた（ビデオ学習）」の紹介、実際の保育現場の映像などを通して3歳未満児の姿について理解を深められるようにする。	
	乳児保育Ⅱ	保育実践の場を理解し、保育士としてふさわしい態度や姿勢を身につけることをねらいとする。実践に向けて保育士として必要なスキルを身につけるとともに、教材研究などの準備を行うことの重要性を学ぶことができるようにする。保育現場とはどのような所なのか、具体的な場面を話しながら学生がイメージをもち演習を行い学ぶようにする。乳児保育の理念と社会的意義、子どもの発達上の特徴を理解し、保育者の役割を認識しながら乳児への関わり方を学習できるようにする。保育の実践力がつくように具体的な実技や演習を行い、振り返りながら学びを深める。	
	障がい児保育	・ 障害児保育の理念・歴史、現状と課題について学ぶ。 ・ 教員の、保育現場における特別支援教育指導や、保護者などに対する教育相談等の実務経験から、多様な障害についての基本的知識を深め、特別な配慮・支援を要する子どもへの配慮や援助の方法や、保育の環境構成について学び、実践と結びつけることができるようになる。 ・ 障害を持つ子どもの、家族への支援や、関連機関との関わりについて学ぶ。 ・ 巡回相談や、研修会の助言の経験から、障害を抱えて育つ子どもが集団生活の中で共に育ち合うためのクラス作りや、保育者・教師の果たすべき役割と課題を考察する。	
	子ども家庭支援論	困難を抱えた子どもを援助するには、子どもの家庭背景を視野にいれておく必要があるとともに、養育者・保護者に対しても相談・助言を行うことが求められる。本科目では、現代の家族の変容とそれを取りまく社会環境の変化について理解を深め、保育者が子育て支援を行うための援助の視点と方法を学習する。子どもの問題は親が原因というような単純な捉え方ではなく、現代家族が抱える困難について社会的な背景を含めた理解をし、説明ができるようになること、また、養育者・保護者に実際どのような対応ができるか、子育て支援の他の専門職者との連携をどのようにすすめていけばよいのかなど、具体的な保護者への対応力をつけ、支援策について具体的な提案ができるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	子ども家庭支援の心理学	子ども及び子どものいる家庭への支援に必要な、保育や子育て支援の知識について学ぶ。生涯発達の中に子どもの発達や学びの過程を位置づけ、現代社会における家族や家庭のありようや子どもの心理社会的問題について理解を深めることを通して、保育者として子どもや子ども家庭の問題にどのように向き合うべきか考える。授業では、人間の生涯発達と初期経験の重要性について説明できること、現代における子どもや子ども家庭の問題と、それらに対する配慮について説明できることを目指す。	
	子どもの食と栄養	食と栄養は子どもの心身の発達に重要な役割を果たしている。そこで妊娠期(胎児期)・乳児期・幼児期・学童期・思春期と各段階に応じた栄養と食生活の重要性について学び理解を深める。また、様々な食環境の変化にともなう子どもの食生活の現状と課題を学習する。保育者も自ら食生活を振り返り食改善していくことも視野に入れた楽しく食べる体験を通して、子どもの食への関心を育み“食を営む力”の基礎を培うような「食育」を展開し実践していく基盤を培う。小児の発育発達における食の意義や基礎的な栄養に関する知識を理解することや地域社会における食文化との関わりの中で食生活体験の重要性について理解することを目指す。	
	子どもの健康と安全	子どもを保育する上で必要な保健的観点や踏まえた保育環境及び援助の知識や感染症対策(感染経路への対策、具体的な感染症対策)、慢性疾患等の個別的な配慮を要する子どもへの対応や、子どもの体調不良時の適切な対応(応急措置、救急措置、発熱・痙攣・咳・発疹・腹痛・下痢・嘔吐)について講義する。また、災害時における保健者の役割と災害の備えについて学ぶ。	
	子どもの食と栄養	食と栄養は子どもの心身の発達に重要な役割を果たしている。そこで妊娠期(胎児期)・乳児期・幼児期・学童期・思春期と各段階に応じた栄養と食生活の重要性について学び理解を深める。また、様々な食環境の変化にともなう子どもの食生活の現状と課題を学習する。保育者も自ら食生活を振り返り食改善していくことも視野に入れた楽しく食べる体験を通して、子どもの食への関心を育み“食を営む力”の基礎を培うような「食育」を展開し実践していく基盤を培う。小児の発育発達における食の意義や基礎的な栄養に関する知識を理解することや地域社会における食文化との関わりの中で食生活体験の重要性について理解することを目指す。	
	子どもの健康と安全	子どもを保育する上で必要な保健的観点や踏まえた保育環境及び援助の知識や感染症対策(感染経路への対策、具体的な感染症対策)、慢性疾患等の個別的な配慮を要する子どもへの対応や、子どもの体調不良時の適切な対応(応急措置、救急措置、発熱・痙攣・咳・発疹・腹痛・下痢・嘔吐)について講義する。また、災害時における保健者の役割と災害の備えについて学ぶ。	
	社会的養護Ⅱ	本来子どもは、家庭環境の下で幸福を実感し、愛情および理解のある雰囲気の中で成長・発達すべき存在であり、社会は子どもが豊かに生活するための十分な環境を準備すべきである。しかしながら、何らかの事情でその家庭環境を奪われた子ども、或いはその家庭環境にとどまることが認められない子どもが少なからずいる。こうした子どもは国が与える特別な保護および援助を受ける権利を有している。そのために国が整備した一つの特別な保護および援助体制が社会的養護である。したがって社会的養護の関係者は、子どもが心身ともに健全に成長・発達することの出来る養育環境を整備し、一人ひとりの子どものニーズに応じた養育・支援を提供することにより、社会へ巣立つ際には社会的養護のもとで育った子どもを、他の子どもたちと公平なスタートを切ることが出来るまでに育成することが求められる。この科目では、その支援に必要な知識・技術を体系的に学び、修得することを目的とする。	
	子育て支援	現代社会において求められる子育て支援の意義や価値、方策や方法、制度や技術について学ぶ。地域と連携しながら、保育士が保護者に対して相談、助言、情報提供などの支援をどのように行うか演習を通し具体的に理解する。保育現場の特性と保育士の専門性を生かした保護者・家庭支援の多様な方法を理解し、自分自身で実際にどのように計画し、技術を活用するか具体的な提案ができるようになることが目標である。	
	保育者論	「保育者とは何か」についていろいろな側面から理解を深められるように授業を行う。保育者の専門性、具体的な仕事の内容、社会における役割、倫理、制度などについて理解し、保育者の協働や専門的成長について、地域社会とのかかわりや生涯発達といった観点からみた保育者について、一人ひとりが考える機会をもてるように展開する。現在のことも園や保育所、幼稚園の実情、変遷などを概観しながら、保育者としての役割が何なのか考えられるようになること、また、生涯にわたる人格形成の基礎となる人との関係を作る大切な時期である乳幼児期の保育・教育課程の役割を学び、保育者としての在り方について自身の保育観が明確にもてるようになることを目指す。	
展開科目	生活健康論	この講義は、生活にまつわる諸問題について社会的に論じることで、受講者が社会学の基礎知識と社会的なものの方見方を獲得することを目的とする。具体的には、食・住まい・健康の3分野について、実際の出来事や事件をもとに、各問題の内容を紹介し、受講者にも各問題について考えてもらう。講義はシラバスに沿うが、その時々に関連のニュースも取り上げながら進める。履修者は、得た知識をもとに自ら思考し、その考えを他人に理解できるように伝えることができ、授業で得た批判的な思考法を応用して、自らの直面する課題に取り組むことができ、また、今後の私生活・職業生活に役立てることができるようになることを目指す。	
	食育指導論	コロナ禍で自粛が繰り返される現在の日本。活動自粛により、食生活の乱れやストレスの高まり等で、肉体的にも精神的にも追い詰められている。特に乳幼児から児童・生徒については、心身の発育・発達が著しく、人格の基礎が形成される時期であることから、将来における影響は大きい。この自粛疲れとも言える状況の受け皿は家庭であり、その家庭の中心にあり影響を与えているのが食卓であり食育である。この授業を、その『食育』の有り方考え方を学ぶ場としたい。	
	食育実践論	現在の日本で乳幼児期以降の学童期、思春期をみると、朝食欠食等の食習慣の乱れや、過剰なやせ願望に見られるような心と体の健康が課題となっている。そこで、乳幼児期から正しい食事のとり方や望ましい食習慣を身に付け、食を通じた人間性の形成、食卓を通じた家族関係づくりによる心身の健全な育成を図ることが必要となっている。そのため、発育・発達段階に応じた食に関する取組を進めることが必要と考えられる。本授業ではその、乳幼児、児童を実際に指導する際に必要な食事・食品・栄養・食文化・食物アレルギー等の知識を学び、それぞれの発育、発達段階に応じた食に関する指導に繋げることができる力を身に付けることができる授業としたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際子ども支援学	外国にルーツのある子ども達の教育が問題視されるようになってきた。1990年の改正入管法に遡り増加の要因に気づかせ、特色ある支援策を講じている自治体の政策を概観する。また、現状とその具体的支援策を概観し、増加することによって生じる課題に気づかせる。また、当事者が抱える課題についても問題意識を持たせる。担当者が支援者として関わった児童の事例を研究することにより、必要な支援策について考えさせる。学校ができる支援策についての具体的な計画を立て、模擬実践を試みさせる。情報から知識を得て、アクティヴ・ラーニングを通して、実際に教員として彼/彼女らのような背景を持つ子どもに直面した時に、具体的支援策を講じられるような実践力をつける。	
	子どもとメディア	インターネットや携帯電話等の情報機器を利用が近年急速に発展しつつあり、子どもが携帯電話を持つ割合も高まっている。子どもがさまざまな情報に直接接する機会が増えていることから、子どもが自ら情報を収集して、判断し、発信していく能力の育成が急務となっている。この講義では、そのようなメディアの利便性や危険性を理解し、私達一人ひとりがメディアについての理解を深めることを目的としている。授業では、メディアについての理解を深め、子どもに与えるメディアの影響について理解し、メディアリテラシー、クリティカルシンキングを身に付けることを目指す。	
	子ども臨床心理学	子ども支援の現場では、カウンセリングや臨床心理学的手法がさまざまな形で用いられている。本講義では代表的な臨床心理学の理論（力動的心理学、認知行動療法、人間性心理学）を紹介するとともに、傾聴技法・グループワークとインプロードなどカウンセリング的対応の訓練を行い、子どもへの対応を中心としたカウンセリングマインドを理論と実践の両面から学ぶ。代表的な臨床心理学の理論を説明できる、カウンセリング的対応を説明できるとともに、受容的な傾聴方法を実践できることなどを旨とする。	
	小児看護学概論	小児各期の成長発達について、代表的な発達理論をふまえながら教授する。また、小児医療・小児看護の歴史、子どもの権利を概観しながら、子どもを取り巻く現代の社会環境や母子保健施策の実際と課題について概説する。そのうえで、健康な子ども、病気が障がいのある子どもの健やかな成長発達を目指した支援を考えるうえで必要な基礎的知識を、保健・医療・福祉・教育の視点から教授する。授業では、小児各期の成長発達の特性、発達課題と成長・発達を促す支援を説明できる、小児看護において生じる倫理的課題の解決プロセスにおいて、倫理原則を適用できる、小児各期に生じやすい事故の防止策や安全教育の方法を表現できる、小児各期の子どもとその家族のセルフケアの相補関係と支援を説明できる、様々な健康レベルにある小児と家族に必要な看護の方法を説明できることなどを旨とする。	
	子ども音楽実践演習	学内外（保育所、施設、児童デイサービス等）での演奏や障がいのある子どもたちとの音楽体験等を通して、演奏・企画の方法と実践を経験する。また、合唱、弾き歌い、器楽合奏等の音楽活動を通して、読譜力、表現力、聴取力等の総合的に音楽する力、また指揮による統率力、指導力など保育者及び教員を目指す学生にとって必要となる知識・技能を養う。さらに、保育・教育現場での音楽会、文化祭、コーラスコンクールなど音楽行事の企画、運営ができるよう能力を身に付ける。	
	保育原理Ⅱ	子どもと保育について多様な角度から考える。伝統的な子育てや国内・国外の実践から学び、保育に関する幅広い視野を養う。子どもの探究心、考える力、集中力、表現力、共に生きる力の形成を助ける保育のあり方を考える。授業では、授業のテーマや課題について整理し、自分の言葉で見解を表現することができる、学んだ内容を踏まえて実習等自己の体験を考察し、自分なりの保育観を構築し表現することができる等を目指す。	
	総合表現	地域（吹田市）に根付く「うた」を教材化し、国語科と音楽科の目標と内容、指導方法を明確にした、新教科「つながり科」の一単元を開発する。小学校教員が児童に指導するために活用するデジタル教材を作成する。授業では、言語表現、音楽表現等を総合的に捉え、感性、想像力、表現力を身に付けること、計画、話し合い、練習等の一連の活動に主体的に取り組み、創意工夫して学内と学外に向けた発表作品を仕上げる、友達同士で表現することにより、コミュニケーションを養い、表現する喜びや達成感を味わうことを目指す。	
実習・実践演習科目	子ども地域活動Ⅰ	本来子どもは、地域社会の中で育つ。家庭の子育ても、また学校での教育も、地域社会に支えられて成り立つ。もともと地域社会は、子どもたちに遊びの空間と時間と仲間、そしてさまざまな興味をそそる物や自然を提供してくれる場であった。けれども今日において、地域社会は子どもにとって、必ずしも豊かな恵みをもたらしてくれる場とはいえない。だが、それゆえ他方では、「地域社会で子どもを育てよう」という多様な取り組みが展開されている。そこで本授業では、「太陽の広場」に参加するための事前準備学習や、ふりかえりを通して子ども達と豊かにコミュニケーションするための方法を学ぶ。	
	子ども地域活動Ⅱ	本来子どもは、地域社会の中で育つ。家庭の子育ても、また学校での教育も、地域社会に支えられて成り立つ。もともと地域社会は、子どもたちに遊びの空間と時間と仲間、そしてさまざまな興味をそそる物や自然を提供してくれる場であった。けれども今日において、地域社会は子どもにとって、必ずしも豊かな恵みをもたらしてくれる場とはいえない。だが、それゆえ他方では、「地域社会で子どもを育てよう」という多様な取り組みが展開されている。そこで本授業では、「太陽の広場」に参加するための事前準備学習や、ふりかえりを通して子ども達と豊かにコミュニケーションするための方法を学ぶ。	
	子どもインターンシップ	3年生での保育実習および4年生での教育実習の準備学習として、保育所、幼稚園、小学校その他の子ども関連施設の中から原則として、一つの職場を選び、その職場を1週間（40時間）以上にわたって実施に体験する。当該施設における職務内容や組織編成、職員の仕事の一端を知るとともに、子どもへの支援的なかかわり方について実地に学ぶ。現場体験を通して、子どもにかかわる職場への理解を深めるとともに、保育職や教職を目指す自己の適性や課題について考え、切磋琢磨しながら専門性を高めていくことを目指す。	共同
	子ども地域ボランティア	本授業は、子どもインターンシップをはじめ実習等に関わる授業を見据え、学生各自の問題意識と進路希望に応じた体験学習、発展学習の場として実施する。また教育実習・保育実習の準備のための学習機会にも位置付け、各学生が計画を立てて行う地域でのボランティア活動（概ね40時間の活動）と活動報告によって構成する。なおボランティアについては地域の教育、保育に関連する様々な取り組みの中から複数の内容を選択し、実施時期についても当該年度内（前期・後期）のボランティア活動に限り、組み合わせた上で行うことができる。	共同



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外インターンシップ	本授業では、国際化時代における子どもの教育、特にイギリスにおける日本人の子どもの教育の枠組みを学び、海外での幼稚園での実践方法を学習する。これをもとに実際に海外の幼稚園で短期間のインターンシップを行い、みずからの異文化への適応能力を高めるとともに、国際的な幼稚園における教育実践に参加することを通して、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭としての資質を高める。	
	介護等体験実習	7日間の介護等体験に参加することによって、教職を目指すものとして必要な個人の尊厳や価値観の相違、社会の連帯に対する認識を深め、教員としての資質の向上を図る。特別支援学校における介護等体験の事前指導に加え、特別支援学校および社会福祉施設での計7日間の介護等体験を通して、個人の尊厳や価値観の相違、社会の連帯に対する認識を深めるとともに、自身の専門職としての意識向上につなげ、社会的な課題を捉える態度を身に付ける。	
	保育実習ⅠA(保育所)	保育実習ⅠAは、学生にとって学外ではじめての実習科目であり、保育士資格を取得するための必須科目である。2週間にわたり、実際に保育所において、乳幼児(利用者)とかわり、保育士の仕事の助手として関わりながら、授業で学んだ内容と実践の統合を図る総合学習の科目である。具体的実習目標は、①乳幼児(利用者)に対する理解を深める。②保育所の役割と機能を理解する。③保育士の職務内容を理解し、保育技術を習得する。④保育の計画を理解し、観察や記録を行う。⑤専門職としての保育士の役割と職業人倫理を理解するである。	
	保育実習ⅠB(施設)	大学指定の乳児院、児童養護施設などの児童福祉施設において、保育実習を行う。目標は、乳児院や児童養護施設など児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解することが出来る、社会的養護の場において、子どもとかわることで子どもやその背景にある家庭の問題について理解を深めることができる、既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育及び養護、保護者への支援について総合的に学ぶことができる、保育・養護の計画、観察、記録及び自己評価等を具体的に理解し、実践できる、施設保育士としての業務内容や職業倫理について具体的に学ぶことができるなどである。	
	保育実習指導ⅠA(保育所)	この授業は、「保育実習ⅠA(保育所)」を受講する前に保育実習にあたっての知識・技能・態度を学ぶファースト・ステップであり、保育士資格を取得するための必須科目である。そのため、本授業では、保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って、実習に取り組めるように学んでいく。また、観察や記録に関する指導や指導案の考え方や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるための知識や技術を習得する。事前、事後の学習や実習体験を振り返り、実習の経験交流と反省、課題整理などを行い、保育所の機能や保育者の役割や職務内容などを具体的に・総合的に学んでいく。	
	保育実習指導ⅠB(施設)	保育実習ⅠBに向けての事前指導、準備・事務手続き、事後指導が行われる。授業の目標は、保育実習ⅠBの意義・目的を理解することができる、実習内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等の倫理について理解することができる、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習時に実践することができる、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることで、保育士としての適性など今後の自分の進路を考えるうえで示唆を得ることができる、などである。	
	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰにおける実習や事前・事後指導をさらに深め、保育所の保育士としての職務内容や役割、保育内容・指導技術を学ぶため、保育所において10日間の実地実習を行う。本講の目的は、実習の課題および実習の反省や今後の課題を明確にし、児童福祉専門職としての児童観、保育観の視野を広め、現代の児童、家庭、社会等への理解をさらに深めることである。事前指導として、保育実習Ⅰの評価を踏まえ、個別面接から、各自の保育実習Ⅱの課題を明確にする。保育実習Ⅱに意欲的に取り組み、児童福祉の専門職として、児童観、保育観を高めるよう個別にまたはグループ別の学習を深める。実習終了後、事後指導として実習の成果を踏まえ、個別に担当教官から面談を受け、進路の方向性を考える。	
	保育実習指導Ⅱ	この授業は、「保育実習Ⅱ」を履修する前に保育実習Ⅱにあたっての知識・技能・態度を学ぶ場であり、保育士資格を取得するための必須科目である。そのため、本授業では、「保育実習指導ⅠA」や「保育実習ⅠA」における実習や事前・事後指導をさらに深め、保育実習Ⅱの意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って、実習に取り組めるように学んでいく。また、観察や記録に関する指導や指導案の考え方や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるための知識や技術を習得する。事前、事後の学習や実習体験を振り返り、実習の経験交流と反省、課題整理などを行い、保育所の機能や保育者の役割や職務内容などを具体的に・総合的に学んでいく。	
	保育実習Ⅲ	以下の4点について、保育所以外の各実習施設の種別、特性に応じながら学習し、実践力を身に付けることができることが目標である。特に保育実習ⅠB(施設実習)での経験をふまえさらに実践力を高めることが求められる。1. 保育所以外の児童福祉施設等の役割と機能 2. 施設における支援の実際 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化	
	保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲに向けての事前指導、準備・事務手続き、事後指導が行われる。保育実習Ⅲの意義・目的、実習内容として、保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能の実践を通しての理解、福祉や養護の理解をもとに、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うこと、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解すること、保育士としての自己の課題の明確化が挙げられる。これまでの保育実習、特に保育実習ⅠB(施設実習)の経験をふまえ、より実践力を高めることができる。	
	教育実習A(幼稚園)	本授業は実際の保育現場での長年の実務経験のある教員が担当し、その経験や知識を生かして子どもの育ちや保育現場の実情を伝えつつ、学生がこれまでの教職課程で修得した内容を踏まえ、4週間にわたり幼稚園での教育実習がより実り多き実習になるよう、準備のための大学での事前指導及び振り返りのための大学での事後指導を行う。これらを通して、学生自身が幼稚園における教育課程の編成と実施の実際を知り、とりわけ日々の保育実践や学級経営等に実習生として参加することを通して、幼稚園教諭として必要な知識や技能を習得できるよう促す。	講義 15時間 実習 120時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育実習B(小学校)	小学校教育実習の事前学習(前期8コマ)、教育実習4週間、事後学習(後期7コマ)を行う。教育実習の目的や意義、心得などの理解を図るとともに、課題意識をもって教科指導や生徒指導等に取り組むことができるようにする。そのために、小学校児童の発達段階の特徴の理解と、学級経営、生徒指導、教材研究、学習指導案作成、模擬授業にかかわる知識・技能の習得を目指す。この授業を通して、自分の目指す教師像、なりたい自分を思い描き、自らの課題を解決していこうとする意欲を育てる。公立小学校と附属小学校での実習指導の経験を生かし、具体的な実践例を交えた授業を行う。	講義 15時間 実習 120時間
	保育・教職実践演習(幼稚園)	本授業は、教職あるいは保育職をめざす各自が、教職課程の学修内容を改めて確認し、その集大成を図るために行う。したがって本授業の履修者は、本授業を通して、これから教職に就くための自己の課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、またその定着を図り、教職保育職の生活をより円滑にスタートできるように準備することが求められる。そこで本授業では、保育者として求められる次の4つの事項を中心課題として授業を進める。 ①教職の使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②教員に求められる社会性や対人関係能力に関する事項 ③教員に求められる子ども理解と集団づくりなど学級経営等に関する事項 ④教科・保育内容等の指導力に関する事項	共同
	教職実践演習(幼・小)	本授業は教職をめざす各履修者が、教職課程の学修内容を改めて確認し集大成を図るために行う。大学4年間の「学びの軌跡」を振り返り、発表や交流を通して自己の課題を自覚し、教職生活を円滑にスタートできるように準備する。そのためにも教員として要求される下記の事項を中心課題とする。 (1) 教職の使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項。 (2) 教員に求められる社会性や対人関係能力に関する事項。 (3) 教員に求められる子ども理解(幼児・児童理解)と集団づくりなど学級経営等に関する事項。 (4) 教科・保育内容等の指導力に関する事項。	
総合演習科目	基礎ゼミⅠ	本演習では少人数構成の参加グループを単位に主として次の学習に取り組む。 1. 子ども支援協働研究室の子どもブレイルーム活動に参加し、そこで乳幼児やその保護者との実際のふれあいを通して基本的な観察力やかかわり方を学ぶ。 2. 1の体験を振り返り、整理し、記録することで、乳幼児やその保護者を実際に理解する。 3. 保育に必要な基本的技能の実践・試行の場として、自己の課題を明らかにするとともに、他の教科と関連づけて学習を深める。	共同
	基礎ゼミⅡ	本演習では少人数構成の参加グループを単位に主として次の学習に取り組む。 1. 子ども支援協働研究室の子どもブレイルーム活動に参加し、そこで乳幼児やその保護者との実際のふれあいを通して基本的な観察力やかかわり方を学ぶ。 2. 1の体験を振り返り、整理し、記録することで、乳幼児やその保護者を実際に理解する。 3. 保育に必要な基本的技能の実践・試行の場として、自己の課題を明らかにするとともに、他の教科と関連づけて学習を深める。	共同
	応用ゼミⅠ	(岸本 みさ子) この演習の基本テーマは「子ども支援」です。子どもは発達し成長する主体です。その子どもの育ちを支援する視点から、とくに子どもの教育や福祉・保育、子ども文化、また子どもにかかわる社会の現状について、演習を通して考えていきます。そのアプローチとして、「保育」をキーワードに、関係する文献の講読にとりくみます。そしてこれを踏まえたフィールドワークとして保育現場や遊び場を訪問し、体験学習にとりくみます。  (本間 晴子) 科目の共通基本テーマは「子ども支援」とする。このゼミナールでは子どもの造形表現、造形遊びの視点で演習と実践を行う。ワークショップや保育、教育現場に限らずあらゆる取り組みに視野を広げ、子どもの造形活動をどのように行うことが必要とされるかを学んでいく。また、ゲストスピーカーからは子ども支援イベントを企画するための実践的な方法論を修得し、学内外イベント企画に携わり可能な範囲で実践とシュミレーションを行う。また、各自3・4年次にとりくむ研究課題について展望を持てるようにする。  (宮里 慶子) この演習の基本テーマは「子ども支援」であり、子どもの福祉・保育の視点から取り組む。子どもにかかわる社会の現状、特に児童虐待について、関係する文献の講読、および、フィールドワークとして関連施設を訪問見学、あるいはゲストスピーカーを招き、学習を行う。  (古達 貴) この演習の基本テーマは「子ども支援」である。子どもは発達し成長する主体である。その子どもの育ちを支援する視点から、とくに子どもの教育や福祉・保育、子ども文化、また子どもにかかわる社会の現状について、演習を通して考えていく。そのアプローチとして、「子どもとスポーツ」をキーワードに、関係する文献の講読にとりくみます。そしてこれを踏まえたフィールドワークとして体験学習にとりくみます。  (伊原木 幸馬) 科目の共通基本テーマは「子ども支援」とする。このゼミナールでは子どもの音楽表現の視点で演習と実践を行う。ワークショップや保育、教育現場に限らずあらゆる取り組みに視野を広げ、子どもの音楽表現活動をどのように行うことが必要とされるかを学んでいく。また、ゲストスピーカーからは子ども支援イベントを企画するための実践的な方法論を修得し、学内外イベント企画に携わり実践を行う。また、各自3・4年次にとりくむ研究課題について展望を持てるようにする。	
	応用ゼミⅡ	(宮里 慶子) 前期の「応用ゼミⅠ」に引き続き、「子ども支援」という基本テーマで進めるが、Ⅱでは、文献講読、学内でのオレンジボン運動(児童虐待防止啓発活動)の企画・運営などに取り組む。また、後半は、児童虐待対応や子どもの支援を行っている現場の見学や現場の方から話をうかがう機会をもち、さらに視野を広げ、理解を深める。	



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(古達 貴) この演習の基本テーマは、「子ども支援」です。子どもは、発達し成長する主体である。その子どもの育ちを支援する視点から、子どもの教育や福祉、保育について、考えていく。そのアプローチとして、この演習Ⅱでは、前期の演習Ⅰを踏まえ、その発展的な取り組みとして、「コーチング技術」をキーワードとして、関係する文献の講読にとりくむ。この文献購読で得た知見をもとに、子どもが育つ地域社会やその施設等に目を向け、フィールドワークに取り組む。これらをとおして、「子ども支援」について知見を広げ、とりわけ「子どもの居場所」に関する理解と認識を深める。また、各自3・4年次にとりくむ研究課題について展望を持てるようにする。</p> <p>(本間 晴子) 前期に引き続き基本テーマを「子ども支援」とし、ゼミナール形式にて考察を深める。この授業では造形表現をテーマとして、支援の場所作りの企画からフィールドワークとして子ども、親子向けのワークショップ実践を前期に引き続き行う。「造形遊び」、「造形教育」の視点を持ち、ワークショップにはどのような内容が必要とされるのかディスカッションを行い、学生同士のコミュニケーションも重視する。造形表現を通した子ども支援について知識と技術の修得と理解を深め将来の実践力を身につける。</p> <p>(岸本 みさ子) 前期応用ゼミⅠに引き続き、「子ども支援」という基本テーマで進めます。この演習Ⅱでは、「子ども」「保育内容」「遊び」などをキーワードとして関係する文献の講読に取り組みます。また、文献購読で得た知見をもとに子どもが育つ地域社会に目を向け、フィールドワークに取り組めます。</p> <p>(伊原 幸馬) 前期に引き続き基本テーマを「子ども支援」とし、ゼミナール形式にて考察を深める。この授業では音楽表現をテーマとして、支援の場所作りの企画からフィールドワークとして子ども、親子向けのワークショップ実践を前期に引き続き行う。「音遊び」、「音楽表現」、「音楽教育」の視点を持ち、ワークショップ(コンサート)にはどのような内容が必要とされるのかディスカッションを行い、学生同士のコミュニケーションも重視する。音楽表現を通した子ども支援について知識と技術の修得と理解を深め将来の実践力を身につける。</p>	
発展ゼミⅠ		<p>(浅井 千晶、谷村 綾子) 本演習では、1、2年での学習や研究、体験活動を発展させる観点から、主として国際理解(国際または外国文化の理解)に資することを目的として、関連文献講読や、ディスカッション、プレゼンテーションなどを試みる。国際的な子ども理解、国際的な教育の理解については、海外の保育教育事情の研究や日本における外国にルーツのある子どもの教育状況の研究を行う。また英語絵本や英語教材の研究、国際感覚を高めるためにTOEICに挑戦することや、海外研修の計画を立てることも含む。上記の演習を通して、4年生で行う卒業研究につながるよう、各自の問題意識を深め、必要なスキルの習得を目指す。</p> <p>(早田 由美子、中重 直俊) 本演習では、1、2年での学習や研究を発展させる観点から文献講読を行い、保育職に求められる知識を修得し、必要な資質や能力を培う。主として保育学・幼児教育学に関係する文献を選択して講読に取り組む。また、文献講読を深める方法として、ディスカッションやディベート、プレゼンテーションなども試みる。これらを通して、4年生の卒業研究へと向かう問題意識を深め、必要な文献を準備する。後半は保育園での交流を目標にグループで児童文化上演を準備・実施し、子ども・保育者の実際的な理解を深める。 【保育・幼児教育ゼミの主なテーマと内容】 乳幼児教育・保育の理論と実践について</p> <p>(串崎 幸代、小野 淳) 本演習では、1、2年での学習や研究を発展させ、保育士や教職をはじめとする子ども支援の専門職に求められる、心理学的な知識と技法について学ぶ。心理学に関係する文献の講読に取り組む、体験学習やディスカッション、プレゼンテーションなどを通してその理解を深める。これらを通して、4年生の卒業研究へと向かう問題意識を深めることを目的とする。</p> <p>(本宮 裕示郎、黒瀬 哲也) 発展ゼミⅡで行うフィールド・スタディのための土台作りとして、著名な教育実践家によって蓄積されてきた授業実践をもとに、教育とは何か、学校とは何かについて考察する。また授業実践の特徴をおさえるだけでなく、その実践が行われるまでの試行錯誤の過程も視野に入れて議論を行うことによって、教師の専門性についての認識を深める。</p>	共同
発展ゼミⅡ		<p>(浅井 千晶、谷村 綾子) 本演習では、1、2年での学習や研究、体験活動を発展させる観点から、主として国際理解(国際または外国文化の理解)に資することを目的として、関連文献講読や、ディスカッション、プレゼンテーションなどを試みる。国際的な子ども理解については、子どもの権利条約の研究、国際的な教育の理解については、海外の保育教育事情の研究、英語絵本や英語教材の研究、また自分の国際感覚を高めるためにTOEICに挑戦することや、海外研修の計画を立てることも含む。また、4年生で行う卒業研究につながるよう、各自の問題意識を深め、必要なスキルの習得を目指す。</p> <p>(早田 由美子、中重 直俊) 本演習では、1、2年での学習や研究を発展させる観点から文献講読と子育て支援施設での実践を行い、これを通して保育職・教職をはじめとする、子ども支援の専門職に求められる知識と技能を修得し、必要な資質や能力を培う。そこで本演習では、主として保育学・教育学に関係する文献を選択して講読に取り組む。また、文献講読を深める方法として、ディスカッションやディベート、プレゼンテーションなども試みる。これらを通して、4年生の卒業研究へと向かう問題意識を深め、必要な文献を準備する。 【保育・幼児教育ゼミの主なテーマと内容】 乳幼児教育・保育の理論と実践について</p> <p>(串崎 幸代) 子ども支援に関わる心理学の基礎を復習すると同時に「子ども支援の現場で心理学がどのように生かされているか」を重視して、現場での使用されている心理技法について体験的に学ぶ。自分の問題意識を深めるための文献収集の方法、研究方法、効果的なプレゼンテーションの方法についても学ぶ。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(黒瀬 哲也、本宮 裕示郎) 学力低下や教育格差、生徒指導上の課題など教育現場で生起する問題は多岐にわたる。一方で子どもたちが抱える課題に迫るため、地域とともにある学校づくりなど子どもの成長を支える多くの施策が進められている。本授業では、様々な教育上の問題や学校の取り組み、教師の役割、地域連携等について、小学校におけるフィールドワークにより把握・考察し、ディスカッションや関連する調査、研究集録の作成などを通して深める。	
	卒業研究	(浅井 千晶) これまでの学習と研究をもとに、各人が子どもにかかわる研究テーマを設定し、教員の指導と助言を受けながら研究に取り組む。本研究室では、卒業論文(子どもにかかわる研究論文)を作成する。英語で書かれた絵本、児童英語に関するトピック、ユニセフのような国連機関と児童に関する問題等を研究対象とし、論文作成を行う。  (小野 淳) これまでの学習と研究をもとに、本演習では主として情報教育や心理学の視点から、各自が子どもにかかわる研究テーマを設定し、教員の指導助言を受けながら研究に取り組み、子どもにかかわる内容について調査および制作を行い、研究論文を作成する。また、その内容を発表する。  (串崎 幸代) 4年間の学びの集大成として、心理学の領域から各自関心のあるテーマを選び、教員の助言と参加者との討議を参考に研究計画を作成し、研究を行う。研究の成果を卒業論文としてまとめる。  (早田 由美子) これまでの学習と研究をもとに、各自が子どもにかかわる研究テーマを設定し、教員の指導助言を受けながら研究に取り組み、卒業論文を執筆する。  (本間 晴子) これまでの学習や体験をもとに、各自が関心を深く持つ「子どもの発達と造形表現活動」、「子どもの発達と造形遊び」等に関わる内容について研究テーマを設定し、造形表現について各自の観点で考察を深め、その考察研究を論文にまとめる。研究内容によっては遊び道具等の制作を含み考察、観察を深めた内容を含めたものを論文とする。  (谷村 綾子) 各自の専門領域を踏まえて研究テーマを設定し、教育学科での学びを通して得た経験などをもとに卒業研究を行い、論文を完成させる。教育学に限らず、広く新しい分野での挑戦的テーマ設定も可とする。ただしその場合は指導教官との相談を丁寧に行うこと。また卒業論文発表会でプレゼンテーションし、質疑応答をおこなうこととする。  (宮里 慶子) これまでの学習と研究をもとに、本演習では主として児童福祉の視点から、各自が子どもにかかわる研究テーマを設定し、教員の指導助言を受けながら研究に取り組み、卒業論文を執筆する。  (古達 貴) これまでの学習と研究をもとに、学生生活の総まとめとして専門分野に応じた研究課題を設定し教員の指導助言を受けながら研究に取り組み執筆、発表を行う。  (岸本 みさ子) 4年間の学びと経験を基に、各人が「子ども」に関する研究テーマを設定し、教員の指導・助言を受けながら研究に取り組み、卒業論文を執筆する。また、卒業論文発表会でのプレゼンテーションと、質疑応答にも対応する。  (本宮 裕示郎) これまでの学習と研究をもとに、教育方法学の視点から、各自の問題意識に従って、子どもにかかわる研究テーマを設定し、教員の指導助言を受けながら研究に取り組み、卒業論文を執筆する。  (中重 直俊) これまでの学習と研究をもとに、各自が子どもにかかわる研究テーマを設定し、教員の指導助言を受けながら研究に取り組み、卒業論文を執筆する。	
関連科目	キャリア演習A	教職を目指す学生のキャリアを形成していくために必要な意欲・態度の育成、教育に必要な知識・技能の習得を目指す。特に小学校教員としての指導力の育成を図る。小学校での実務経験を生かし、評価基準を明確にした自己評価を取り入れながら、読解力や論理的表現力を育成する。学生一人一人が自分のキャリアパスに関心を持ち、自分の力で探求していくことができ、教職の専門職として求められる読解力や論理的表現力等を身に付けることができることを目指す。	
	キャリア演習B	子ども支援・教職を目指す学生のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な、意欲・能力・態度及び教職に必要な幅広い能力の形成を目指す。教職教養の基礎的内容について理解を深め着実な知識の定着を図りつつ、必要に応じて活動内容を学生が主体的に計画・運営することを通じて、コミュニケーション能力や実務能力の育成を行う。キャリア演習A,Cとの接続を意識した指導を行う。教職を目指す学生一人ひとりが、各自のキャリアパスに関心を持ち、また高め、職業に求められる能力を自分自身で追求していくことを目指す。	
	キャリア演習C	演習を通じて、教員等に求められる一般教養・専門教養について整理し、必要な知識・技能等を身に付けることを支援する。また、教員になる者として、自分の良さを見つけ、自分の長所を意欲的に伸ばそうとするとともに、自分に不足するスキルや知識を補おうとする姿勢を育てるため、作文指導を行う。学習指導への意欲を高め、授業スキルを磨くため、学習指導要領や指導案の分析・作成について取り扱う。アクティブラーニングの観点から、知識定着のためプレゼンテーションを取り入れる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	キャリア演習D	持続可能な世界の実現が求められる中、教員として求められる資質、能力を磨き、教職への熱意と意欲を磨く。そのためにも教育が直面する課題や子どもを取りまく状況について把握し、実際の教員の活動や取り組み、保護者、地域社会との連携など必要な知識、技能について理解を深める。また、学級担任として子どもたちと向き合い教育活動に当る実践力の向上に取り組むと共に、教員に求められる基本的な資質・能力が着実についているか自己点検を行い、自己課題の克服に努め、教員採用試験に備える。	
	キャリア演習E	教職への熱意と意欲を高め、教員に求められる資質、能力を磨いて教員採用試験に備える。そのためにも学校が直面する課題や教育を取りまく状況について把握し、実際の教員の活動や学校の取組み、保護者への対応など必要な知識、技能について理解を深める。また、学級担任として子どもたちと向き合い教育活動に当る実践力の向上に取り組むと共に、教員に求められる基本的な資質・能力が着実についているか自己点検を行い、自己課題の克服に努める。	